

# 彙報

二〇一八年四月より  
二〇一九年三月まで

## 研究状況（二〇一八年度）

### 研究班

#### 公募型研究班

オーラル・ヒストリー・アーカイヴスによる戦後日本映畫史の再構築  
班長 谷川建司

三年計畫の最終年度である本年度は、まず年度初めの五月二日（土）・一三日（日）に第一回研究會を開催した。初日は、ゲストとして、大部屋俳優として東映、大映、京都映畫に所屬されていた平井靖氏を招き、さまざまな時代の現場の様子について話を伺い、また、舟漕ぎの名手として、様々な映畫やテレビ時代劇で舟漕ぎのシーンを演じてこられた際のこつなどについて映像を交えながら説明をして頂いた。二日目には前年度から開始したメンバーによる研究發表の第三回目として、西村大志（廣島大學）が「映畫製作と借金——岡本喜八、古澤憲吾、松林宗恵」というテーマで發表を行った。第二回研究會はそのすぐ翌週の五月一九日（土）に行われ、子役として各映畫會社の作品に出演した後にも俳優として活躍されている目黒祐樹氏をゲストに迎え、俳優一家に生まれ育った少年時代から始まって、成人後の主な

出演映畫作品、テレビ作品の撮影時のエピソードなどを、映像を確認しながらお話し頂いた。第三回研究會は七月二日（土）・二三日（日）の二日間、場所はゲストの都合により東京の早稲田大學にて開催した。一日目はゲストとして元・大映、元・日活のスクリプターとして活躍してこられた堀北昌子氏を招き、大映京都撮影所と日活調布撮影所というふたつの全く異なる環境での仕事について話を伺った。二日目は、研究發表の第四回目として、久保豊（早稲田大學）が「ロゴから辿る日本映畫のイメージ戦略——日活撮影所を一例に」というテーマで發表を行った。第四回研究會は九月二三日（土）・二四日（日）に開催され、初日には元・大映で大道具として活躍し、松竹京都撮影所で最長老の美術管理「装置係」として活躍し、後進の育成に従事してこられた馬場正男氏を招いて、その長きにわたるキャリアの様々な時期の様々な作品での経験についてお話し頂いた。二日目には研究發表の第五回目として、花田文彦（京都大學）が「戦後雑誌文化のなかの『近代映畫』——小杉修造氏インタビューを手がかりとして」というテーマで發表を行なった。レギュラーの研究會とは別に、一〇月二七日（土）・二八日

（日）の二日間、「人文研アカデミー二〇一八・公開シンポジウム企画「映畫『祇園祭』と京都」を開催した。一日目は京都大學時計臺國際交流ホールにて「映畫『祇園祭』上映會」を行い、班長による主宰者挨拶及び上映作品の背景説明が行われた後、映畫『祇園祭』（一六八分）の復元版三五mmフィルムでの上映を行った。二日目は人文科學研究所大會議室において、シンポジウム「京都史の中における『祇園祭』」を開催した。発表者とその發表タイトルを順にあげると、木村智哉（明治學院大學）「中村錦之助の『祇園祭』製作前夜——五社協定と俳優クラブ組合を中心に——」、板倉史明（神戸大學）「『祇園祭』論争に見る脚本家と監督の権限」、太田米男（大阪藝術大學）「映畫『祇園祭』の復元と保存」、京樂眞帆子（滋賀縣立大學）「映畫『祇園祭』と歴史學研究」、そして高木博志（人文研）「近現代史のなかの映畫『祇園祭』」である。デイスカッションを木下千花（京都大學）が、班長・谷川建司（早稲田大學）が司會進行役を務めたパネルデイスカッションでは、フロアーを含めて活発な議論が繰り広げられた。來場者数は一日目の上映會が一一〇名、二日目のシンポジウムが七〇名であった。第五回研究會は十一月五日（木）に、關西圏在住者のみでミニ研究會の形で開催された。ゲストには日本の映畫草創期の横田商會を設立した横田永之助氏のご子息である横田良之助氏をゲストとして招き、自身、大映で働いてこられたご経験や父とその横田商會についてなどについての話を伺った。第六

回研究会は二〇一九年二月二四日に一日のみの形で行われた。この第六回研究会は三年間の活動の最後の研究会であり、ゲストは招かずに、二〇一九年度内に刊行豫定の研究会の成果物としての論考集に乗せるべき論考の提出希望者の中で、論考の元となる研究発表の機会がこれまでなかった須川まり（追手門大學）、小川順子（中部大學）、石橋佳枝（テンプル大學）にそれぞれの研究テーマについて発表を行ってもらった。また、シンポジウムの報告書の進捗状況についての報告、三年間の研究会全體的報告書の作成プラン、論考集とインタビュ集の書籍としての刊行のプランについて班長より説明を行い、原稿提出の締め切りを含む今後のスケジュールについて確認を行った。

五月二二日 第一回研究会（一日目）

平井靖氏へのインタビュと質疑  
 平井靖氏へのインタビュと質疑  
 平井靖氏へのインタビュと質疑

五月二三日 第一回研究会（二日目）

映畫制作と借金——岡本喜八、吉澤憲吾、松林宗恵  
 発表者 西村大志  
 廣島大學

五月一九日 第二回研究会

目黒祐樹氏へのインタビュと質疑  
 目黒祐樹氏へのインタビュと質疑

発表者 目黒祐樹

七月二二日 第三回研究会（一日目）

堀北昌子氏へのインタビュと質疑  
 堀北昌子氏へのインタビュと質疑

発表者 堀北昌子

スクリプター（元・大映、元・日活）  
 スクリプター（元・大映、元・日活）

司會 谷川建司

七月二二日 第三回研究会（二日目）

ロゴから辿る日本映畫のイメージ戦略——日活撮影所を一例に  
 ロゴから辿る日本映畫のイメージ戦略——日活撮影所を一例に

発表者 久保 豊

九月二二日 第四回研究会（一日目）

馬場正男氏へのインタビュと質疑  
 馬場正男氏へのインタビュと質疑

発表者 馬場正男

大道具・装置係（元・大映）  
 大道具・装置係（元・大映）

司會 谷川建司

九月二三日 第四回研究会（二日目）

戦後雑誌文化のなかの「近代映畫」——小杉修造氏インタビュを手掛かりとして  
 戦後雑誌文化のなかの「近代映畫」——小杉修造氏インタビュを手掛かりとして

発表者 花田史彦

一〇月二七日

京都大學大学院教育學研究科  
 人文研アカデミー二〇一八「映畫『祇園祭』と京都」第一日目

「映畫『祇園祭』上映會」映畫「祇園祭」と京都

発表者 谷川建司

一〇月二八日

人文研アカデミー二〇一八「映畫『祇園祭』と京都」第二日目  
 公開シンポジウム「京都史の中における『祇園祭』」  
 中村錦之介の「祇園祭」製作前夜——五社協定と俳優クラブ組合を中心に——

「祇園祭」論争に見る脚本家と監督の権限

「祇園祭」の復元と保存

発表者 木村智哉

「祇園祭」の復元と保存

「祇園祭」と歴史學研究

発表者 板倉史明

「祇園祭」と歴史學研究

「祇園祭」と歴史學研究

発表者 太田米男

「祇園祭」と歴史學研究

発表者 京樂眞帆子

近現代史のなかの映畫「祇園祭」

発表者 滋賀縣立大學

祭』 發表者 高木博志

十一月五日 横田良之助へのインタビューと  
質疑應答

發表者 横田良之助  
元・大映（横田商會を設立した  
横田永之助氏の子息）  
司會 上田學  
神戸學院大學

二月二十四日 戦後の京都映畫史における吉村  
公三郎の位置づけ

發表者 須川まり  
追手門大學  
日本映畫における時代劇映畫の  
位置づけ  
發表者 小川順子  
中部大學

Escapade in Japan  
めぐりて  
日本ロケを  
發表者 石橋佳枝  
テンブル大學

フリーコー研究——人文科學の再批判と新展開

班長 小泉義之  
本共同研究の中核は、班員がそれぞれの研究報  
告を行う研究會（例會）である。二年目となる本  
年度は、ここまで、全三回の例會（各回二日連続  
したがって六日、ただし、第三回例會二日目は臺  
風接近により延期）を開催、そのうちの一日（第  
三回例會一日目）をゲストを招いての公開研究會  
として企畫し、二〇一七年に刊行されたフリーコー

報  
彙

『性の歴史』第四卷『肉の告白』の検討を行った。  
本年度はさらに、一月末および三月半ばに二回の  
例會（全四日+延期された第三回例會二日目のス  
ライド開催）を豫定している。また、本年度より、  
研究班の内部に「フリーコー講義」及び「科學史  
（的觀點からのアプローチ）」をテーマとする二つ  
のサブ・グループを設け、本研究班の内部を構造  
化した。本年度第四回および第五回例會は、これ  
らのサブ・グループのイニシアティブによりそれ  
ぞれ開催される。なお、本年度五月から六月にか  
けて、「人文研アカデミー」にて、連続セミナー  
「68年5月」と私たち」を主催し、本研究班のメ  
ンバー一〇人が登壇、毎回好評を得た。

五月二日 第一回例會（一日目）  
〈私たち〉の構成——後期フ  
コー研究の知見から再讀した  
『知の考古學』における主體  
發表者 松本潤一郎  
就實大學  
フリーコー研究の最近の動向と今  
後の展望 發表者 箱田 哲  
天理大學  
五月二三日 第二回例會（二日目）  
『臨床醫學の誕生』を讀む  
發表者 田中祐理子  
眞理と眞理體制——フリーコーの  
「スピノザ」  
發表者 市田良彦  
神戸大學

七月一日 第二回例會（一日目）  
言語、鏡、セイレーン フリーコー  
の初期文學論  
發表者 藤井俊之

七月一日 第二回例會（二日目）  
フリーコーと（ルソー）——『ル  
ソー、ジャン・ジャックを裁  
く・對話』を巡りつつ  
發表者 佐藤淳二

七月五日 第二回例會（二日目）  
パレーシア論を批判的に讀む  
發表者 堀尾耕一

七月五日 第三回例會（一日目）  
公開研究會「Histoire de la sex-  
ualité 4 Les aveux de la chairを  
讀む」  
『肉の告白』——私の讀みどこ  
ろ 發表者 立木康介  
意志と主體——『肉の告白』に  
おけるフリーコーのアウトグステイ  
ヌス讀解——  
發表者 相澤伸依  
東京經濟大學  
「情欲の主體の分析論」について  
發表者 長原 豊  
法政大學

九月二九日 第三回例會（一日目）  
公開研究會「Histoire de la sex-  
ualité 4 Les aveux de la chairを  
讀む」

發表者 長原 豊  
法政大學

て 發表者 慎改康之

自己に對する關係の變容? 明治學院大學

發表者 近藤智彦 北海道大學

二〇一九年一月二十五日 第三回例會(二日目)  
(臺風のため九月から一月に順延)

生權力/生政治とは何か——レイシズム、自由主義、新自由主義 發表者 佐藤嘉幸 筑波大學

「以上は、ネオリベラル派が言うはずであろうことに最も近く寄り添った場合の私の物事の見方です」——規律權力論からリベラル統治性論への移行について 發表者 廣瀬 純 龍谷大學

一月二十六日 第四回例會(一日目)

La Societe punitive を讀む——le penal et le punitif をめぐら moral に注目して—— 發表者 相澤仲依 東京經濟大學

生的に主權的複合體——フーコーの人文科學批判の射程—— 發表者 藤田公二郎 西南學院大學

英米圏哲學者たちによるフーコー解釋——(批判理論)から「戰闘性」まで—— 發表者 布施 哲 名古屋大學

一月二十七日 第四回例會(二日目)

フーコーにおける「狂氣」の言語の問題 發表者 武田宙也 京都大學大學院人間・環境學研究科

「主體の解釋學」における法の問題について 發表者 西迫大祐 明治大學

啓蒙、革命、パレーシア——80年代フーコーの思想における「現在」 發表者 坂本尙志 京都藥科大學

フーコーとポピュリズム 發表者 箱田 徹 天理大學

三月一六日 第五回例會(一日目)

強迫神經症の主體の終焉、あるいは倒錯的な抵抗の線を引くこととの「不可能性」について 發表者 久保田泰考 滋賀大學

狂氣、主體、眞理——フーコー 狂氣、主體、眞理——フーコー

とラカンにおけるデカルト的ゴトの問題をめぐって 發表者 柵瀬宏平 東京大學(博士課程)

三月一七日 第五回例會(二日目)

「カントの人間學」を讀む 發表者 田中祐理子 京都大學文學部/白眉センター

エピステモロジーサークルのフーコー——析出する考古學、蠢動する系譜學 發表者 坂本尙志 京都藥科大學

日本鍼灸醫術の形成——近世醫學史の再構築 班長 長野 仁

近世から現代へと受け継がれてきた鍼灸醫術の源流を探り、傳授形式や流儀を具體的に検討することによって、鍼灸學派の系譜を明確にし、技術的傳統の形成に構造的把握を試みた。本年度は、とりわけ現存最古の鍼道傳授書である『針聞書』を考究對象に取り上げ、著者である茨木元行が唱えた今新流の傳播を追跡し、近世鍼術の流派がどのように分岐していったのかを系譜づけながら、その著作に圖解されたハラノムシの病理觀や治療法、診斷術をめぐる諸問題を討議した。研究班の立ち上げに際し、茨木元行『針聞書』編纂四五〇周年を記念して覆刻版を刊行するとともに、五月一二日に地元茨木市鍼灸師會と共催で茨木神社にて茨木元行顯彰會の發足式を舉行し、翌日に茨

本市立生涯学習センターにて聲優の神谷明氏、古箏演奏家の伍芳氏、古典落語家の桂福丸を特別ゲストに招いた覆刻版刊行記念公開イベントを共同研究会と連動する形で開催した。また、班長が實行委員長を務めた日本傳統鍼灸學會大會（一月二四～二五日開催）においても、『針聞書』編纂四五〇周年をメインテーマとする併催イベントを實施し、『針聞書』を基軸にした鍼灸醫術共同研究プロジェクトを大々的にアピールした。なお、九月には地震と臺風で被害に遭った茨木神社の復興支援を目的として、班長、副班長と大形徹氏を講師とするチャリティ講演會を行ったことも附記しておく。

五月一二日 「日本鍼灸醫術の形成」班／國文學研究資料館醫學書班合同研究会

茨木の歴史と文化「わがまち茨木へようこそ」

發表者 岡市正規

茨木神社宮司

茨木元行の今新流「小國郷への傳播について」

發表者 長野 仁

森ノ宮醫療大學大学院教授

南小國志賀瀨の橋本龍雲家舊宅の現状報告

發表者 原山光成

小國郷史談會會長

『腹の蟲の研究』概説

五月一三日 「ザ・ハラノムシ・ワールド」南山大學人文学部教授

○周年完全覆刻版刊行記念イベント

内弟子55年!!わが師 井上恵理

發表者 南谷旺伯

元岐阜縣鍼灸師會會長／旺針療

所院長

中國古箏ミニコンサート「東洋

醫學の風景」

發表者 ウー・ファン

中國古箏演奏家

教師生活25年！ハラとハラノム

シとワタン

發表者 長野 仁

古典落語「疝氣の蟲」

發表者 桂 福丸

トークショー「オレの名は。聲

優半世紀の職人魂！」

發表者 神谷 明

一〇月二七日 琢周系流儀書の書誌

發表者 長野 仁

出雲地方の醫學史と琢周

發表者 梶谷光弘

（公財）いづも財團・研究員

『諸蟲針治論圖』諸本の異同一

圖示される「蟲」の圖の比較か

らー 發表者 池内早紀子  
大阪府立大學大学院・博士課程  
醫學說話の誕生と成長―鍼立・  
無分の場合―

發表者 福田安典

日本女子大學 教授

『難經俗解』一栢注と『扁倉傳』

幻雲注について

發表者 宮川浩也

日本内經醫學會會長

二月 三日 「經絡治療」の歴史、「脉診」の

歴史 發表者 浦山久嗣

赤門鍼灸柔整專門學校

三月一〇日 東京ミーティング二〇一九・三

「後藤・香川流古醫方の學統」

後藤良山の門人録『儒醫姓名

録』 發表者 長野 仁

丸龜藩醫・尾池家の系譜につい

て 發表者 中澤 淳

東亞大學

讀岐藩醫・宮武家の系譜につい

て 發表者 宮武浩二

阪急田園バス

舞臺で街頭で――60年代は踊りをどう變革したか

（日佛比較舞踊學の試み） 班長 北原 まり子

論文集 『Danser en 68 Perspectives internatio-

nales』（二〇一八年）の出版を受け、編集責任者

の一人であるシルヴィア・ヌ・パジエス氏および

寄稿者であるパトリック・ドゥヴォス氏と、一九

六〇年代の日佛舞踊状況に關する意見交換を行った(二〇一八年二月〜二〇一九年一月)。來日したパジェス氏と班員全員は、二〇一九年二月二十五日に京都大學人文科學研究所にて第一回研究會「日本とフランスの60年代舞踊情勢の比較」を開催し、日佛比較に基づく相違について議論した。その結論をふまえて二七日に、公開國際シンポジウム「街頭で、劇場で、舞踊の60年代——アクション／リアクション」を東京大學駒場キャンパスで開き、パジェス氏、ドウヴォス氏、北原、宮川が登壇した(登壇豫定であった長谷川六氏は肺炎のため急遽缺席\*)。翌二八日に慶應義塾大學三田キャンパスにてパジェス氏による講演會「戦後のフランスのダンス状況と一九七八年の舞踏シヨック」を開催した。その際、ドウヴォス氏、北原、宮川もコメンテーターとして登壇し、聴衆との活発な議論が展開された。\*當時の發言者の方々は高齢であり、京都までお越しただくのは困難であったため、第二回及び第三回研究會の開催地は東京としていた。

二月二五日 日本とフランスの60年代舞踊情勢の比較——シルヴィア・パジェス氏をお招きして  
 Danser en 68: Perspectives internationales! (Isabelle Launay, S. Pagès 著) Deuxieme Epoque  
 社(二〇一九年一月)について  
 発表者 シルヴィア・パジェス

革命への郷愁、前衛、資本主義——アンビヴァレントな一九六〇年代の舞踊表現  
 発表者 宮川麻理子  
 一九五〇年代半ばから一九六〇年代半ばにかけての舞踊人による社會運動と前衛の臺頭、そして一九六八年…?

二月二七日  
 街頭で、劇場で、舞踊の60年代——アクション／リアクション(日本とフランスの比較を通じて)  
 五月革命に踊る  
 発表者 シルヴィア・パジェス

《アルジェリアに行きたい》(一九六〇年)——戦後のダンスにおける「黒人」の表象を巡って  
 発表者 宮川麻理子  
 舞臺以外で起こったのか? Partout sauf sur scene? ——日本のダンス60年代(「革命」の場所)  
 発表者 北原まり子  
 コメンテーター パトリック・ドウヴォス  
 シルヴィア・パジェス氏來日講演會  
 戦後のフランスのダンス状況と

一九七八年の舞踏シヨック  
 発表者 シルヴィア・パジェス  
 コメンテーター パトリック・ドウヴォス  
 コメンテーター 北原まり子  
 『尙書』解釋の過去と現在  
 班長 竹元 規人  
 平成三〇年一月に陳鴻森氏を招聘し、『尙書』解釋の過去と現在」というタイトルの國際學術會議を開催した。陳氏は「高宗諒陰」に關する長年の研究成果を発表(講演)した。ほかに竹元が崔述(一七四〇〜一八一六)の『尙書』辨偽に關する研究発表を行い、その清代・近代以後の學術史上の意義を考察した。研究集會では、発表者・参加者により研究発表内容に關する集中的な討議を行うとともに、尙書學研究の方法や指針に關する幅広い議論も行った。續いて平成三二年二月に九州大學の林曉光氏を招聘し、セミナー「文史哲——文學と哲學から見た『文史通義』」を開催した。平成三二年三月、竹元・内山が臺北に赴き、研究集會で陳鴻森氏の発表した内容を『東方學報』に投稿するための打ち合わせを行い、合わせて中央研究院中國文哲研究所ほかで研究者にインタビューを行って、臺灣での近年の『尙書』研究動向を調査した。

二月二八日  
 シルヴィア・パジェス氏來日講演會  
 『尙書』解釋の過去と現在  
 班長 竹元 規人  
 発表者 陳 鴻森

臺灣・中央研究院  
崔述的《尚書》論  
發表者 竹元規人  
福岡教育大學

二月一九日 文史哲——文學と哲學から見た  
『文史通義』  
史的な文——古典文學研究の立  
場から見る章學誠

發表者 林 曉光  
九州大學

一九二〇—三〇ドイツの精神分析の發展と社會理  
論への影響についての研究 班長 上尾 眞道  
本共同研究では、全二回の例會を開催して、戦  
開期ドイツ語圏の精神分析理論の發展と當時の社  
會理論との關連について討議を行った。第一回は

二月一〇日に實施し、上尾による導入的報告の後、  
村田智子によるウイルヘルム・ライヒの理論・實  
踐の全體像についての報告、丸山明によるオッ  
ト・ランクおよびフランツ・アレキサンダーの  
戦開期の展開についての報告を行って、全體で討  
論を行った。第二回は三月六日に實施し、藤井あ  
ゆみによるベルリン精神分析インスティテュート  
の制度と實踐についての報告、舟木徹男による  
エーリッヒ・フロムの思想とフランクフルト學派  
に關する報告ののち、全體で討論を行った。

二月一〇日 導入に代えて・戦開期ドイツ語  
圏の狀況と精神分析

發表者 上尾眞道  
龍谷大學・非常勤

ライヒの思想・實踐の變遷、ま  
た諸概念の整理  
發表者 村田智子  
名古屋藝術大學・非常勤

改革か？ 反逆か？——オッ  
ト・ランクとフランツ・アレ  
キサンダーの治療論  
發表者 丸山 明  
近畿大學・非常勤

三月 六日 戦開期のベルリン精神分析イン  
スティテュート  
發表者 藤井あゆみ  
同志社大學・非常勤

エーリッヒ・フロムにおけるフ  
ロイトとマルクスの統合  
發表者 舟木徹男  
龍谷大學・非常勤

東方學研究部  
轉換期中國における社會經濟制度

班長 村上 衛

本年度は三年計畫の三年目にあたり、合計一八  
回の研究會を行った。毎回の参加者数は二〇〜二  
五名ほどで、本學文學研究科の院生をはじめとす  
る若手の班員からも積極的な参加と發言を得た。  
本研究班は時代的・テーマ的に廣い範圍を扱うた  
め、中國近現代史研究者のみならず、明清史研究  
者や現代中國研究者、また人文科學系だけではな  
く、社會科學系の經濟史研究者に参加していただ

いている。コメントテーターは關西に限定せず、首  
都圏や松江・鹿兒島などの各地から報告テーマに  
即した研究者を招聘した。いずれの報告に關して  
も活發に討論が行われ、報告・討論の時間を合わ  
せて三時間半近くになることもあった。なお、本  
研究班では定例の研究會に加えて班員による出版  
書の書評會（二〇一八年六月二十四日、上田貴子著  
『奉天の近代 移民社會における商會・企業・善  
堂』）を行い、中國の「制度」をさらに多角的に  
研究する機會を設けた。

四月二七日 順治十年正月の『刑科史書』か  
らみた清初刑部の一側面  
發表者 王天馳  
文學研究科

コメントテーター 谷井陽子  
天理大學  
五月一八日 “Adulterated” Chinese Tea on  
the Late 19th-Century US  
Market: Producer Conivance  
or Consumer Prejudice?  
發表者 Robert Halper  
ウエイクフォレスト大學（日文  
研）

コメントテーター 古田和子  
慶應義塾大學  
六月一日 清朝在外公館における西洋人ス  
タッフとそのメディア活動  
——D.B. マッカーティーの琉  
球歸屬問題をめぐる言説を中心

として

發表者 Thomas Barrett

東京大學

京都女子大學

六月二五日 長崎の聖堂と孔子廟——日中の近世・近代を考える

發表者 岡本隆司

京都府立大學

六月二九日 北鬼氏〈大清憲法案〉譯讀報告

發表者 彭 劍

華中師範大學

七月二三日 清代學政規制與皇權體制

發表者 安東強

中山大學

七月二〇日 民國初期、上海共同租界における犯人引き渡し交渉について

發表者 郭まいか

文學研究科

コメントーター 孫安石

神奈川大學

一〇月五日 民國期中國における水産人材育成の模索

發表者 楊峻懿

人間環境學研究科

コメントーター 佐々木貴文

鹿兒島大學

一〇月一九日 杜亞泉の言説における社會主義——社會主義と文明の調和

發表者 李ハンキョル

文學研究科

十一月二日 一九三〇年代南京國民政府の借款とその歸結——棉花からみた棉麥借款

發表者 秋田朝美

經濟學研究科

十一月二六日 一九一〇年代中國の米禁と一九一八年對日米穀輸出問題

發表者 堀地 明

北九州市立大學

コメントーター 木越義則

名古屋大學

十二月七日 一九五〇〜七〇年代の中國の綿製品輸出について——日本紡績協會の調査から見えるもの

發表者 富澤芳亞

島根大學

コメントーター 渡邊純子

經濟學研究科

十二月二日 近代北京における肺結核豫防治

療の出發と展開…一九三〇年代を中心として

發表者 瞿 艷丹

文學研究科

コメントーター 蒲 豐彦

京都橘大學

一月二八日 「アート・スペース」としての日中戰爭期の中ソ文化協會

發表者 漆 麟

コメントーター 吳 孟晉

二月一日 英領西インド諸島における中國移民の社會的地位向上…一九三〇〜四〇年代の分析を中心に

發表者 園田節子

兵庫縣立大學

二月二五日 日本軍占領下のアモイと日本佛教の宣撫工作——眞宗大谷派の神田惠雲を中心に

發表者 坂井田夕起子

コメントーター 原不二夫

日本軍占領下のアモイと日本佛教の宣撫工作——眞宗大谷派の神田惠雲を中心に

二月二三日 ある宣撫官の長い道のり——戦犯・笠實の日中戦争

發表者 太田 出

人間・環境學研究科

コメントーター 大澤武司



熊本學園大學

三月 一日 清末日本の蠶糸業學校に學んだ  
中國人留學生について

發表者 王 怡然

人間・環境學研究科

コメンテーター 富澤芳亞

島根大學

東アジア古典文獻コーパスの實證研究

班長 安岡孝一

平成三〇年度は、Universal Dependencies を用いて漢文を記述する手法に對し、Edwin George Pulleyblank の『Outline of Classical Chinese Grammar』の各例文を記述することにより、その有効性の檢證をおこなった。この結果、この手法の有効性に、かなりの確信を持ったことから、『孟子』『論語』『大學』『中庸』の全文を Universal Dependencies で記述すべく、調査と作業をおこなっている。また、この手法によって構築した古典中國語の依存文法解析エンジンの能力を檢證すべく、大學入試センター試験『國語』の問題のうち、漢文の本文部分に對して、どの程度の自動解析がおこなえるかを檢證中である。

四月二〇日 二〇一八年度活動方針

五月二二日 MeCab-Kanban to CoNLL-U

六月 八日 Universal Dependencies による

『Outline of Classical Chinese Grammar』の例文檢討

六月二二日 Universal Dependencies による

『Outline of Classical Chinese Grammar』の例文檢討

『Grammar』の例文檢討

七月 六日 Universal Dependencies による

『Outline of Classical Chinese Grammar』の例文檢討

七月二〇日 Universal Dependencies による

『Outline of Classical Chinese Grammar』の例文檢討

八月一八日 人文科學とコンピュータ第118回

研究發表會『古典中國語 UD

コーパスの PFS を用いた表現の試み』

九月 七日 M. Bernhard Karlgren [LE

PROTO-CHINOIS, LANGUAGE

LEXIONELLE] 再檢討

九月二二日 「古典中國語(漢文)の依存文法

解析と直接構成素解析」ゲラ

チェック

一〇月二二日 「漢文の依存文法解析と返り點の

關係について」ゲラチェック

一〇月二六日 UD Pipe Visualizer

一一月一六日 Universal Dependencies による

『大學』の例文檢討

一二月七日 Universal Dependencies による

『孟子』の例文檢討

一二月二二日 Universal Dependencies による

『論語』の例文檢討

一月一日 Universal Dependencies による

『孟子』の例文檢討

東西知識交流と自國化——汎アジア科學文化論

班長 武田時昌

東アジア世界の科學文化を構造的に把握するために、異國間における科學知識の接觸現象にスポットを當て、受容過程と自國化していく史的展開の諸様相について汎アジア的視點から多角的な考察を試みた。本年度は、『宿曜經』の會讀を行い、日本に多く殘存する中世、近世の寫本を校合しながら密教占星術が中國、日本の天文曆學にどのような作用を發揮したのかを檢討した。未來創成學國際研究ユニット外國人教員として招聘した首都醫科大學・副教授の張淨秋氏及び北京中醫藥大學教授の梁永宣氏の協力を得て、中國から研究者一〇名を招聘し、六月一六―一七日に日中醫學史セミナーを開催し、次世代を擔う若手、中堅研究者の交流を促進し、國際共同研究の新たな基盤作りを行った。また、一二月には、北京大學外國語學院教授の陳明氏を招聘し、インド、中國、日本の中世から近世にかけての醫藥文化交流をめぐる特別講演會を催すとともに、來年度に北京にて共催シンポジウムを行うための協議を行った。研究成果の公表としては、昨年度に開催した國際研究集會の參加者と科學史研究會、術數學研究會の班員に廣く呼びかけ、白眉研究者の麥文彪氏とともに研究論文集の編纂を企畫した(二〇一九年三月に刊行豫定)。

五月一四日 宿曜經研究會

『宿曜經』卷上、序日宿直所生

品第一 昴・畢・觜

六月一日

發表者 白 雲飛  
日中醫學史セミナー 2018 in  
Kyoto 「傳統醫療文化の問題  
圈」

〈セッション1 出土簡帛と醫  
療文化〉  
〈セッション2 近世養生學の  
ベクトル〉

新出土醫史籍をめぐる二、三の  
考察 發表者 名和敏光

山梨縣立大學・准教授  
放馬灘簡《鐘律式占》疾病占卜  
的數術模型 發表者 程少軒

復旦大學・副研究員  
出土秦漢醫方中度量衡問題芻議  
發表者 胡 穎翀

上海市中醫文獻館・助理研究員  
朱權『活人心』の朝鮮と日本に  
おける傳播——諸本の比較を通  
して—— 發表者 劉 青

京都大學人間環境學研究所・D  
2

江戶時代の養生書刊行とその普  
及 發表者 入口敦志

國文學研究資料館・教授  
江戶時代の養生書刊行とその普  
及

コメンテーター 名和敏光

山梨縣立大學・准教授

六月一日

日中醫學史セミナー 2018 in  
Kyoto 「傳統醫療文化の問題  
圈」

〈セッション3 醫藥文獻の新  
考察〉

〈セッション4 傳統科學文化  
の新アプローチ〉

〈セッション5 文化的傳統と  
醫學教育〉

富士川文庫の新出資料  
發表者 成 高雅

京都大學人間環境學研究所・D  
2

朝鮮《醫方類聚》引用中國傷寒  
金匱類文獻考  
發表者 黃 英華

北京中醫藥大學圖書館・助理研  
究員  
《太平御覽》所載醫藥文獻整理  
研究——以《疾病部》為考察中  
心 發表者 孟 永亮

內蒙古醫科大學中醫學院文史各  
家教研室・講師  
滑壽醫籍及其存世版本考辨  
發表者 張 淨秋

首都醫科大學・副教授  
《素問玉版論要篇》的中醫象數  
學初步研究  
發表者 吳 新明

廣東省中醫院名醫工作室・助理  
研究員  
陳靈謨の『元音統韻』と『五車  
韻府』の科學と音韻のかかわり  
發表者 浦山あゆみ

大谷大學文學部・教授  
傳統醫療文化からみた美容鍼灸  
學 發表者 王財 源

關西醫療大學・教授  
四國醫療專門學校が所藏するふ  
たつの張子二體組銅人形につい  
て 發表者 松木宜嘉

四國醫療專門學校・教員  
日本諾貝爾生理學或醫學獎獲得  
者の成因研究  
發表者 付德 明

山西醫科大學、副教授  
民國初期中國的醫學教育與日本  
發表者 牛亞華

中國中醫科學院中醫藥信息研究  
所、古籍資源研究室、研究員  
日中醫學史セミナー 2018 in  
Kyoto 「傳統醫療文化の問題  
圈」

六月一日

日中醫學史セミナー 2018 in  
Kyoto 「傳統醫療文化の問題  
圈」

〈セッション6 傳統醫療の現  
代〉

滿鐵遺跡與大連大學護理學院關  
係研究 發表者 鄭 賢月

大連大學護理學院、副教授

日本漢方顆粒劑與中國醫學

發表者 梁永 宣

北京中醫藥大學、兵庫醫大中醫藥孔子學院、教授

巡回診療的地緣政治學・對20世紀前半日本東蒙古巡回診療的考察

發表者 財吉拉胡

中山大學社會學與人類學學院人類學系、副研究員

六月一七日

日中醫學史セミナー2018 in Kyoto 「傳統醫療文化の問題圏」

公開シンポジウム「アジアの中の日本古典籍——醫學・理學・農學書を中心として——」

漢字圈醫史の定量比較・人文地理學研究

發表者 眞柳 誠

茨城大學・名譽教授

薩摩、琉球博物學探論

發表者 高津孝

鹿兒島大學・教授

「採藥記」から名所記へ——『本朝奇跡談』——を中心に

發表者 平野恵

臺東區立中央圖書館・専門員

都賀庭鐘の讀本 『通俗醫王者婆傳』

發表者 福田安典

日本女子大學・教授

コメンテーター 名和敏光

山梨縣立大學・准教授

總合討論「中醫學、漢方醫學からエコヘルスを考える」

司會 武田時昌

京都大學人文科學研究所・教授

宿曜經研究會『宿曜經』卷上、序日宿直所生品第二 參・井・鬼・柳

發表者 清水浩子

宿曜經研究會『宿曜經』卷上、序日宿直所生品第二 星・張・翼

發表者 小林博行

宿曜經研究會『宿曜經』卷上、序日宿直所生品第二 軫・角・亢・氐

發表者 白 雲飛

宿曜經研究會『宿曜經』卷上、序日宿直所生品第二 房・心・尾

發表者 小林博行

敦煌出土醫書と古代アジア醫學知識の異文化流傳

發表者 陳 明

北京大學外國語學院

房中書窺見

發表者 永塚憲次

研醫會圖書館・研究員

外傷の漢方薬と鍼灸の自験例を中心に

南亞學系・教授

二月一〇日

宿曜經研究會『宿曜經』卷上、序日宿直所生品第二 箕・斗・牛

發表者 白 雲飛

宿曜經研究會『宿曜經』卷上、序日宿直所生品第二 女・虛・危

發表者 小林博行

東京ミーツイテイング2019.3

中國古代の惑星觀

發表者 武田時昌

古記録所見の勘文と『天地瑞祥志』佚文

發表者 名和敏光

山梨縣立大學

刑徳小遊小考——帛書『刑徳』乙編を中心に——

發表者 小倉 聖

早稲田大學

『靈臺秘苑』の比較研究

發表者 高橋あやの

關西大學

前漢今文經學について

發表者 伊藤裕水

文學部

治療禁忌日について

發表者 島山奈緒子

『活人心』にみえる道教思想について  
 発表者 劉 青

人間・環境學研究所

瀧川龜太郎手録『史記正義佚存』二卷の發見——京都大學人

文科學研究所圖書室への寄贈と中華書局での翻刻までの過程

発表者 小澤賢二

南京師範大學文學院

チベット文明の繼承と史的展開の諸相

班長 池田 巧

『研究會と研究報告』本年度は合計で八回の研究會を行うことができた。歴史學、宗教學、文化人類學、言語學の各分野から、古代・現在にいたるまでのチベット文化の諸相について最先端の研究動向を踏まえたうえで、水準を維持しながらも現在までの研究で何がどこまで明らかにされてきたかを平易に解説する原稿を分擔で執筆し、分野横斷的に多角的な検討を加えた。異なる分野からの視點による學際的な情報提供と意見交換を活発に行なった。

『概論の編集』本研究班の成果をまとめた概論『チベットの歴史と社會』（假題）の編集會議を研究會の開催にあわせて行ない、研究期間内の刊行に向けて編集作業を進めた。

四月二一日 研究班の方針について

五月一九日 概説書…歴史篇／社會篇の検討

六月一六日 概説書…歴史篇／社會篇の検討

七月一四日 概説書…歴史篇／社會篇の検討

九月二二日 概説書…言語篇／宗教篇の検討  
 一〇月一三日 Tibetan Sign Language in

Contact: The Linguistic Milieu of Deaf Tibetan Signers in

Lhasa.

発表者 Theresa Hoffer

University of Bristol, UK

一二月一五日 概説書…言語篇／宗教篇の検討

一月一九日 概説書…言語篇／宗教篇の検討

二月一六日 概説書…言語篇／宗教篇の検討

三月一六日 概説書…言語篇／宗教篇の検討

『文史通義』研究 班長 古勝隆一

四月一七日に最初の研究班を開催して以来、お

おむね二ヶ月に三回のペースで『文史通義』の會

讀を実施した。前年度に引き續き、活潑な議論を

重ねており、問題が完全に解決してない部分につ

いては、議事録を作成し、後日あらためて検討す

ることができるよう記録を保管してある。あ

らかじめ擔當者を決めて、會の數日前に譯注稿を各

班員に配布し、班員が事前に目を通した上で研究

班に出席する方法を採用したため、研究班では効

率的に議論することができた。本研究班では

『文史通義』内篇五卷を譯出することを目的とし

ており、本年度は卷二の後半部分を『東方學報』

九三號に入稿した。まもなく出版される豫定であ

る。本年度は卷三について譯出を進めた。

四月一七日 『文史通義』卷三「文理」譯注

発表者 藤井律之

五月一五日 『文史通義』卷三「文集」譯注

五月二九日 『文史通義』卷三「言公」譯注  
 稿の再検討 発表者 竹元規人

福岡教育大學・非常勤

六月一九日 『文史通義』卷三「言公」譯注

稿の再検討 発表者 竹元規人

福岡教育大學・非常勤

七月三日 『文史通義』卷三「文集」譯注

発表者 道坂昭廣

人間環境學研究所

七月一七日 『文史通義』卷三「篇卷」譯注

発表者 内山直樹

千葉大學

一〇月一六日 『文史通義』卷三「天諭」譯注

発表者 臧 魯寧

文學研究科博士課程

一〇月三〇日 『文史通義』卷三「師說」譯注

発表者 王孫涵之

文學研究科博士課程

一一月二〇日 『文史通義』卷三「假年」譯注

発表者 宇佐美文理

文學研究科

一二月四日 『文史通義』卷三「感遇」譯注

(前半) 発表者 永田知之

一二月一八日 研究集會「尙書」解釋の過去

と現在」

「高宗諒陰」考 發表者 陳鴻森 中央研究院歷史語言研究所 「崔述の『尚書』論」 發表者 竹元規人 福岡教育大學・非常勤	四月二七日 雲岡石窟第十九洞 發表者 岡村秀典	一月二九日 華嚴信仰與龍門佛事 發表者 焦 建輝 龍門石窟研究院
一月二五日 『文史通義』卷三「感遇」譯注 (後半) 發表者 永田知之 北朝石窟寺院の研究 班長 岡村秀典 水野清一・長廣敏雄『雲岡石窟』(全十六卷三 二冊、一九五一〜一九五六年) 圖版解説の會讀を 隔週で實施し、本年度は第十九洞を検討した。そ の成果報告は二〇一八年度の『東方學報』京都第 九三冊に外村中「漢譯『華嚴經』の原典『ブツ ダ・アヴァンサカ・ストラ』の佛身論と宇宙 論について」および岡村秀典「雲岡石窟の初期造 像——曇曜五窟の佛龕を中心として」として掲載 した。また、當研究所と中國社會科學院考古研究 所との共同編集により中國の科學出版社から刊行 している『雲岡石窟』中英語版のうち第二期分 (第八〜第十六卷)までは二〇一五年度に出版さ れ、新たに執筆編集する第三期(第十七〜二〇 卷)の日本語版四卷九冊は二〇一七年八月、中國 語版は二〇一八年六月に刊行され、全二十卷四二 冊(中國語版も同數)が完結した。また、本年度 は招へい研究員として中國社會科學院考古研究所 の李裕群先生と龍門石窟研究院の焦建輝先生をお 招きし、李先生には五回、焦先生には六回の連続 セミナーを開催していただいた。	五月二五日 太原蒙山開化寺佛閣遺址の發掘 與初步研究 發表者 李 裕群 中國社會科學院考古研究所 六月 五日 從鄴城至太原——古代交通路線 上的北齊石窟 發表者 李 裕群 中國社會科學院考古研究所 六月二九日 鄴城地區石窟與鄴城佛教 發表者 李 裕群 中國社會科學院考古研究所 七月二七日 吐峪溝石窟溝西區高臺窟群考古 發掘 發表者 李 裕群 中國社會科學院考古研究所 一〇月 二日 雲岡石窟第十九洞 發表者 黃 盼 京都府立大學 一〇月二六日 雲岡石窟第十九洞 發表者 黃 盼 京都府立大學 一〇月三〇日 雲岡石窟第十九洞 發表者 黃 盼 京都府立大學 一二月 四日 龍門石窟初鑿窟像再考察 發表者 焦 建輝 龍門石窟研究院 一二月一八日 龍門石窟北魏窟龕造像的分期 發表者 焦 建輝 龍門石窟研究院	一月二九日 華嚴信仰與龍門佛事 發表者 焦 建輝 龍門石窟研究院 二月 五日 龍門擂鼓臺石窟寺院考察 發表者 焦 建輝 龍門石窟研究院 二月一九日 龍門石窟的「業道」像 發表者 焦 建輝 龍門石窟研究院 前近代ユーラシアにおけるフロンティアとトラン ス・フロンティア 班長 稻葉 穰 本研究班は、中央アジア、南アジア、西アジア のフロンティアとしての「歴史的アフガニスタ ン」およびその周邊において何が起きてきたのか、 そこを越えて移動した人やモノはフロンティアを 超えた先でいかに機能したのかを、文獻資料や出 土資料をもとに検討し、「前近代におけるグロー バリズム」がいかなる實態を持っていたのかを明 らかにすることを目的として計畫された。本年度 もアフガニスタンの周邊地域における多様な文化 交流に關する研究報告を實施するとともに、九世 紀にAbu Dulafによって執筆されたアラビア語 の旅記である『第二書簡』の會讀を終了させた。 研究班の報告として日本語譯注を發表すべく原稿

をとりまとめ中である。

- 六月 八日 Abu Dulaf 第二書簡會讀  
發表者 稻葉 穰
- 六月 二二日 Abu Dulaf 第二書簡會讀  
發表者 稻葉 穰
- 七月 二三日 Abu Dulaf 第二書簡會讀  
發表者 宮本亮一  
日本學術振興會
- 七月 二七日 Abu Dulaf 第二書簡會讀  
發表者 宮本亮一  
日本學術振興會
- 九月 二八日 フロンティアとしてのヒンドウークシュ  
發表者 稻葉 穰
- 一〇月 二六日 二〇一七、二〇一八年の碑刻銘文調査——アゼルバイジャン  
發表者 井谷鋼造  
文學研究科
- 一一月 九日 二〇一七、二〇一八年ラシード・ウッディーン『歴史集成』寫本のミニアチュール総合研究科研報告  
發表者 川本正知  
ラシード・ウッディーン『歴史集成』第一巻の寫本とミニアチュール  
發表者 川本正知
- 一一月 一四日 Al-Biruni and his interpretation of Yoga and Sankhya

philosophies

- 發表者 Noemie Verdon  
University of Lausanne
- 一月 二二日 パルティア語ニサ陶片文書の世界  
發表者 春田晴郎  
東海大學
- 一月 二五日 一三一—四世紀モンゴル支配期イランのペルシア語簿記術指南書にみえる經濟活動  
發表者 渡部良子  
東京大學
- 二月 八日 ウズベキスタン南部フアヤズテバ遺跡出土の佛教壁畫について  
發表者 影山悦子  
奈良文化財研究所
- シルクロード、天山路の考古學——キルギス共和國チュー溪谷における調査成果——  
發表者 山藤正敏  
奈良文化財研究所
- 三月 一日 Towards the Comprehensive Image Database on Bamyan Buddhist Site  
發表者 Deborah Klimburg-Salter  
Harvard University/University of Vienna
- 發表者 稻葉 穰  
發表者 長岡正哲

UNESCO

- 發表者 Verena Widorn  
University of Vienna
- 發表者 Jürgen Schöflinger  
University of Vienna
- 三月 一五日 Chivalric Bands (*Futuwwa/fivan*) in Medieval Islamic Cities  
發表者 Deborah G. Tor  
University of Notre Dame
- 毛澤東に關する人文學的研究 班長 石川禎浩  
當初三年計畫で出發した本研究班であったが、論文集への取りまとめには、なお議論や分析が足りないため、研究成果(論文集)刊行という目的の達成に近づくべく、一年間研究班を延長し、さらに毛澤東をとりまく様々な謎や資料の發掘、解明につとめた。これまでと同様に、隔週金曜午後開催の研究班例會を中心に活動を進めた。班員は三十数名、毎回の研究班例會の出席者は一七名程度であった。研究班では、まず報告者が一時間半程度の報告を行ったあと、コメントーターが三〇分程度の批評を加え、その上で全體討論を實施するという形式を取った。報告用レジュメを事前に班員に配布して準備にあたってもらうという方針が浸透したおかげで、研究班例會での活発な議論が可能となった。また、二名の招聘/外國人學者と一名の外國人共同研究員をはじめ、(主として中華人民共和國からの)複数の外國人研究者・院生が繼續的に参加していることも本研究班の特色で

あり、彼らとの討論を通じて、毛澤東に關する理解をいっそう深めることができた。

四月二〇日 「新段階論」にかんする検討

發表者 安 東強

コメンテーター 江田憲治

五月二一日 『人民日報』における「自由主義」と毛澤東…戦後内戦期を中心として

發表者 水羽信男

コメンテーター 金野 純

五月二五日 毛澤東と中國共產黨根據地における抗戦記念活動

發表者 郷 燦

コメンテーター 小野寺史郎

六月 八日 毛澤東と水泳發表者 高嶋 航

コメンテーター 彭劍

六月二二日 戯劇學院の文化大革命序説

發表者 瀬戸 宏

コメンテーター 楊 韜

七月二七日 毛澤東の繼續革命論再考

發表者 谷川眞一

コメンテーター 田中 仁

九月二八日 中西功がみる中國革命と毛澤東——その戦中と戦後

發表者 谷 雪妮

コメンテーター 中村元哉

抗日戦争期における中國共產黨と中國ナショナリズム言説

發表者 川口美柚

コメンテーター 水羽信男

一〇月二二日 中國共產黨の「五四」記念と文學革命論争

發表者 江田憲治

コメンテーター 小野寺史郎

一〇月二六日 北有周作人、南有張資平? —— 「文藝講話」における張資平の「漢奸文藝」問題

發表者 祝 世潔

コメンテーター 丸田孝志

一一月九日 文革期における雑誌『北京文藝』

發表者 瀬邊啓子

コメンテーター 江田憲治

一一月三〇日 戦後韓國における毛澤東像

發表者 李ハンキョル

コメンテーター 村田雄二郎

毛澤東時代の肺結核治療法について

發表者 瞿 艶丹

コメンテーター 森川裕貴

一二月一四日 美術の社會主義リアリズム前史

發表者 漆 麟

コメンテーター 福家崇洋

一月二一日 『毛澤東選集』第五卷について

發表者 田中 仁

コメンテーター 谷川眞一

一月二五日 フランスのマオイズム…一九六〇—一九七〇年代

發表者 王寺賢太

コメンテーター 村上 衛

二月 八日 一九五〇年代水利事業における國家指導者像

發表者 岩田美和

コメンテーター 岩井茂樹

三月 八日 「反思」についての一考察——

毛澤東と回想録を手がかりに

發表者 楠原俊代

コメンテーター 高嶋 航

毛澤東研究班を終えるにあたって

發表者 石川禎浩

班長 浅原達郎

楽しんで読む戦國竹書——中國古代の基礎史料

三年の研究班「楽しんで読む戦國竹書」の最終年度になる。昨年度から、班長ひとりによる戦國竹書の講讀と、シニアの公式班員による自由な議論を組み合わせてきたが、最終年度もその形式で進めた。毎回の詳細をウェブサイトに記録することもこれまでどおりで、二〇〇四年の「中國古代の基礎史料」班發足以來、十五年繼續したことになる。戦國竹書について今年度は、讀みかけだった『清華大學藏戰國竹簡』第五册の厚文から始めて、封許之命、命訓を讀み、つぎは湯處於湯丘にとりかかる豫定。また、『日占』第三十號（十月二十六日）を發行し、上海博物館藏楚簡の武王踐阼と鄭子家喪についての讀書札記および清華大學藏簡の繫年にも見える齊長城にかかわる論文を掲載した。なお、昨年度末には『日占』第二十九號（三月三十日）を發行して、上海博物館藏楚簡の天子建州についての讀書札記と清華大學藏簡の良臣・祝辭、別卦にかかわる論文を發表している。

東方文化學院京都研究所舊藏漢籍の整理と研究

班長 矢木 毅

毎週水曜日、一四時より一六時まで、分館書庫にて開催（一二月以降は避寒のため、本館講義室にて開催）。前期は四月一日より七月二十五日まで（計一六回）。後期は一〇月一日より一月三〇日まで（計一四回）。通年で三〇回開催。本年度は集部別集類および中江文庫経部の内容を検討した。毎回の検討の成果を「典據情報」としてまとめ、「全國漢籍データベース」にリンクさせた形でウェブ上に公開している。なお、関連する成果として『京大人文研藏書印譜（二三）』と題する圖録（センター資料叢刊第二五冊）を東アジア人文情報学センターより刊行し、リポジトリ「紅」においても公開した。

五月一六日	集部別集類唐五代之屬	發表者 永田知之	一〇月一七日	集部別集類北宋之屬	發表者 古勝隆一
五月二三日	集部別集類唐五代之屬	發表者 永田知之	一〇月二四日	集部別集類北宋之屬	發表者 古勝隆一
五月三〇日	集部別集類唐五代之屬	發表者 藤井律之	一〇月三一日	集部別集類北宋之屬	發表者 高井たかね
六月 六日	集部別集類唐五代之屬	發表者 藤井律之	十一月四日	集部別集類北宋之屬	發表者 高井たかね
六月一三日	集部別集類唐五代之屬	發表者 古松崇志	十一月二日	集部別集類北宋之屬	發表者 永田知之
六月二〇日	集部別集類唐五代之屬	發表者 宮宅 潔	十一月二八日	集部別集類北宋之屬	發表者 永田知之
六月二七日	集部別集類唐五代之屬	發表者 宮宅 潔	十二月 五日	中江文庫 經部	發表者 藤井律之
七月 四日	集部別集類唐五代之屬	發表者 矢木 毅	十二月二日	中江文庫 經部	發表者 高井たかね
七月一一日	集部別集類唐五代之屬	發表者 福谷 彬	十二月二日	中江文庫 經部	發表者 古勝隆一
七月一八日	集部別集類北宋之屬	發表者 福谷 彬	十二月二六日	中江文庫 經部	發表者 宮宅 潔
七月二五日	集部別集類唐五代之屬	發表者 ウィッテルン、	一月 九日	中江文庫 經部	發表者 矢木 毅
五月二日	集部別集類唐五代之屬	發表者 高井たかね	一月一六日	中江文庫 經部	發表者 古松崇志
五月九日	集部別集類唐五代之屬	發表者 高井たかね	一月三〇日	中江文庫 經部	發表者 藤井律之
四月一八日	集部別集類唐五代之屬	發表者 ウィッテルン、			
四月二五日	集部別集類唐五代之屬	發表者 古勝隆一			
五月二日	集部別集類唐五代之屬	發表者 高井たかね			
五月九日	集部別集類唐五代之屬	發表者 高井たかね			
	集部別集類唐五代之屬	發表者 永田知之			
	集部別集類北宋之屬	發表者 高井たかね			
	集部別集類北宋之屬	發表者 高井たかね			
	集部別集類北宋之屬	發表者 高井たかね			



漢籍リポジトリの基礎的研究

發表者 福谷 彬

班長 ウィットェルン・クリスティヤン

今年度も国際的なデジタル・ヒューマニティーズの動きを確認しながら漢籍リポジトリの内容を充実させて、利用と利便性を高めるを圖った。具體的に「漢學數位基礎建設研討會-Conference on a Digital Foundation for Sinology」(JADH2018、TEI2018、GSD Global Smart Data)とDADH2018に参加し、研究班(班長)で得た情報を共有し、内容を議論した。今回はTRCSS(臺灣漢學リソースセンター)との共同開催で「臺灣漢學講座」が開催された、臺灣のデジタル・ヒューマニティーズについての報告が行った。年度の後半から漢籍リポジトリの次のバージョンの準備を始めた。その一環としてはまず漢籍リポジトリの目録を國際圖書館聯盟で提唱されたIFLA-LRMのモデルに基づいてのモデリングを始めた。

四月二十四日 「漢學數位基礎建設研討會-Conference on a Digital Foundation for Sinology」の報告

- 五月 八日 前年度のまとめ、漢籍リポジトリの現状と今年度の豫定
- 五月二十二日 漢籍リポジトリのアクセス方法
- 六月二二日 臺灣訪問報告
- 六月二六日 TRCSS 講演會：The Digital Humanities in Taiwan: Past, Present and Future
- 七月一八日 臺灣中央研究院の三種漢語話料

庫

一〇月 九日 JADH2018、TEI2018に見える

人文情報學の國際動向

十一月三日 IIF (Image Annotator)と漢籍

リポジトリ

十一月二七日 漢籍リポジトリの目録と

IFLA-LRM

十二月一日 IFLA-LRMと漢籍リポジトリ

の應用：〈Krlh 四書類〉テキ

ストの關係

一月 八日 IFLA-LRM・FRBRとTEIの

關係

一月二二日 漢籍リポジトリの目録を

IFLA-LRM・FRBRに基づいての

モデリング

秦代出土文字史料の研究 班長 宮宅 潔

里耶秦簡・嶽麓簡の概要を紹介し、その内容や研究状況について意見を交換したうえで會讀を進めた。會讀により作成された譯注(嶽麓書院所藏簡《秦律令(壹)》譯注稿 その2)は、東方學報九三冊に掲載豫定である。これと平行して、研究班の活動内容を紹介するホームページを作成し、そこに里耶秦簡に関する札記を公開した(<http://www.shindai-zhibun.kyoto-u.ac.jp/index.html>)。

- 四月一三日 嶽麓簡會讀一四二〜一五〇
- 四月二七日 嶽麓簡會讀一四二〜一五〇
- 五月一日 嶽麓簡會讀一四二〜一五〇

發表者 藤井律之  
發表者 藤井律之  
發表者 藤井律之

五月二五日

嶽麓簡會讀一五一〜一五九

發表者 目黒杏子

六月 一日 嶽麓簡會讀一五一〜一五九

發表者 目黒杏子

六月二五日 嶽麓簡會讀一五一〜一五九

發表者 目黒杏子

六月二三日 嶽麓簡會讀一六〇〜一六八

發表者 宮宅 潔

六月二九日 嶽麓簡會讀一六〇〜一六八

發表者 宮宅 潔

七月 六日 嶽麓簡會讀一六〇〜一六八

發表者 宮宅 潔

七月二〇日 嶽麓簡會讀一六〇〜一六八

發表者 宮宅 潔

七月二七日 嶽麓簡會讀一六九〜一七六

發表者 宮宅 潔

八月 三日 嶽麓簡會讀一六九〜一七六

發表者 安永知晃

九月 七日 里耶秦簡會讀八一七九一〜八一

六 發表者 齋藤 賢

九月二二日 嶽麓簡會讀一六九〜一七六

發表者 安永知晃

九月二八日 里耶秦簡會讀八一七九一〜八一

〇 發表者 鷹取祐司

立命館大學

一〇月二日 嶽麓簡會讀一六九、一七六

發表者 安永知晃

一〇月二六日 里耶秦簡會讀八一七、八四

○ 發表者 鷹取祐司

一月二日 嶽麓簡會讀一七七、一八三

發表者 古勝隆一

一月一六日 里耶秦簡會讀八一七、八四

○ 發表者 鷹取祐司

一月三〇日 嶽麓簡會讀一七七、一八三

發表者 古勝隆一

二月七日 國際シンポジウム 里耶秦簡研

究と中國古代の文書傳達

里耶出土「異處簡」小考・封檢

を中心 發表者 土口史記

岡山大學

秦漢檄書初探發表者 畑野吉則

日本學術振興會・特別研究員

二月二四日 里耶秦簡會讀八一七、一八八

發表者 佐藤達郎

二月二一日 嶽麓簡會讀一七七、一八三

發表者 古勝隆一

一月二五日 里耶秦簡會讀八一七、一八八

七 發表者 佐藤達郎

二月一日 嶽麓簡會讀一七七、一八三

發表者 古勝隆一

二月八日 里耶秦簡會讀八一七、一八八

七 發表者 佐藤達郎

二月二五日 嶽麓簡會讀二〇七、二一四

二月二日 發表者 宮宅 潔

二月二二日 里耶秦簡會讀八一七、九〇

七 發表者 目黒杏子

三月一日 嶽麓簡會讀二〇七、二一四

發表者 宮宅 潔

三月八日 里耶秦簡會讀八一七、九〇

七 發表者 目黒杏子

三月二二日 嶽麓簡會讀一八四、一九三

發表者 佐藤達郎

中國在家の教理と經典 班長 船山 徹

中國の南朝佛教における在家の活動を具體的に

知るため、今年は「廣弘明集」卷二八悔罪篇に關

して前年度に扱えなかつた箇所と、卷二二法義篇

の會讀を集約的に行つた。具體的には、「沙羅齋

懺文」、「無礙會捨身懺文」、「因緣無性論序」、「性

法自然論」、「因緣無性論」の會讀を終えた。今後、

引き続き卷二二の「齊三部一切經願文」、「周經藏

願文」、およびそれ以下の會讀を進める豫定で

ある。

四月 六日 「廣弘明集」卷二二隋煬帝「寶

臺經藏願文」の譯注作成

四月二〇日 「請御制經序表」、「敕答玄奘法

師前表」、太宗文皇帝「三藏聖

教序」の譯注作成

發表者 稻本泰生

六月 一日 太宗文皇帝「三藏聖教序」の譯

注作成 發表者 稻本 泰生

六月二五日 「謝敕齋經序啓」、「敕答謝啓」

九月二日 發表者 中西龍也

「皇太子答沙門玄奘謝聖教序書」

「金剛般若經注序」の譯注作成

發表者 上島 享

文學研究科

一〇月 五日 李儼「金剛般若經集註序」の譯

注作成 發表者 中西久味

新潟大學名譽教授

一〇月一九日 「金剛般若經集註序」・「與翻經

大德等書」の譯注作成

發表者 中西竜也

一一月一六日 「皇太子臣治述 聖詔三藏經序」

の譯注作成 發表者 船山 徹

一二月 七日 中間整理・これまで會讀した箇

所の内容整理と在家の特色

發表者 船山 徹

龍門北朝窟の造像と造像記 班長 稻本泰生

龍門古陽洞の造像記を、原則として『北京圖書

館藏 龍門石窟造像題記拓本全編』（廣西師範大

學出版社）の掲載順に取り上げ、對應する造像と

ともに検討を進めた。有年紀分はすでに終了し、

一月からは古陽洞の造像・造像記を、壁面のプ

ロック単位で全面的に再検討する作業を進めてい

る。

四月一〇日 黃元德造像記など三件

發表者 田林 啓

四月二四日 曹連造像記など四件

發表者 田林 啓

五月 八日 李□妃造像記など三件

- 五月二二日 劉□兒造像記など四件 發表者 苦名 悠
- 六月二二日 法貴造像記など四件 發表者 苦名 悠
- 六月二六日 惠感造像記など四件 發表者 大西磨希子
- 七月一〇日 爲七世父母造像記など六件 發表者 大西磨希子
- 七月二四日 比丘知因造像記など五件 發表者 稲本泰生
- 一〇月 九日 鄭胤興造像記など六件 發表者 稲本泰生
- 一〇月二三日 陵江將軍段桃樹造像記など四件 發表者 稲本泰生
- 一一月二三日 平東將軍蘇方成妻造像記など五件 發表者 稲本泰生
- 龍門の造像銘に見られる若干の將軍號・官職等について 發表者 北村一仁
- 一一月二七日 張婆樂婆造像記など九件 發表者 折山桂子
- 一二月二一日 王非賤造像記など六件 發表者 折山桂子
- 一月 八日 古陽河北壁上層の再検討 第一回 發表者 稲本泰生
- 二月二二日 古陽河北壁上層の再検討 第二回 發表者 稲本泰生
- 三月二二日 シヤカの入滅年について・シヤカムニとアシヨーカー王とカニシユカ王に關する歴史情報の相關分析 發表者 外村 中
- 前近代ユーラシア東方における戦争と外交 班長 岩井茂樹・古松崇志
- 研究テーマの「前近代ユーラシア東方の戦争と外交」について具體的に考察するための題材として、『三朝北盟會編』の會讀に着手した。まず初回の研究會(四月一〇日)では、この書の編纂・流傳・版本について検討し、従来の漢籍目錄・解題に著録されている鈔本・刊本の情報を整理した。さしあたりは入手しやすい、清末光緒年間の許渾度刊本を底本にして會讀をおこなうことにした。四月二四日の第二回研究會より、一四回にわたって『三朝北盟會編』の會讀をおこない、擔當者を決めてテキストの校訂・譯注作業を進め、卷一から卷四の途中までを讀み終えた。なお、一〇月に班長の古松が北京に出張し、『中華再造善本』所收の中國國家圖書館藏明鈔本の複寫を入手した。不完全な本ではあるものの、從來知られる刊本に比べてすぐれた内容を持つ版本であると判断し、以後の研究會では底本を明鈔本に変更して會讀を進めることにした。
- 四月一〇日 『三朝北盟會編』について 發表者 古松崇志
- 四月二四日 會讀…『三朝北盟會編』卷一 發表者 古松崇志
- 五月 八日 會讀…『三朝北盟會編』卷一 發表者 古松崇志
- 五月二二日 會讀…『三朝北盟會編』卷一 發表者 井黒 忍
- 六月 五日 會讀…『三朝北盟會編』卷一 發表者 毛利英介
- 六月 九日 會讀…『三朝北盟會編』卷一 發表者 伊藤一馬
- 七月 三日 會讀…『三朝北盟會編』卷一 發表者 藤原崇人
- 七月一〇日 會讀…『三朝北盟會編』卷一 發表者 藤原崇人
- 一〇月三〇日 會讀…『三朝北盟會編』卷一 發表者 矢木 毅
- 一一月二三日 會讀…『三朝北盟會編』卷二 發表者 井黒 忍
- 一一月二七日 會讀…『三朝北盟會編』卷二 發表者 井黒 忍
- 一二月二一日 會讀…『三朝北盟會編』卷二 發表者 古松崇志
- 一二月二五日 會讀…『三朝北盟會編』卷二 發表者 古松崇志
- 一月一五日 會讀…『三朝北盟會編』卷四 發表者 古松崇志

發表者 高井たかね

發表者 城地 孝

二月一九日 會讀・『三朝北盟會編』卷四

發表者 城地 孝

3世紀東アジアの研究

班長 森下章司

一年目にあたる本年度は、基礎文獻である『三國志』の資料的性格と成立過程、その世界観などについて確認したのち、『魏志』烏丸鮮卑東夷傳の回讀をおこなった。隔週で研究会を開催し、計一七回を實施した。その前半はおもに『魏志』烏丸鮮卑傳をその他の文獻史料の記述および関連する考古資料と對比しつつ読み進め、烏丸と鮮卑の習俗・文化・分布・歴史的變遷について、匈奴などと比較しながら議論した。後半は、東夷傳のうち夫餘と高句麗をとりあげ、同様に文獻史料と圖像資料とをつきあわせて検討をおこなった。また、建築史學と東北アジア考古學の研究者を招き、ゲストスピーカーとして講演してもらい、本研究班の班員との間で議論と意見交換をおこなった。來年度は東夷傳のうち韓と倭について検討し、さらに班員によるテーマごとの報告も順次おこなっていく豫定である。

四月一三日 『魏志』烏丸鮮卑東夷傳と『魏略』『魏書』(一)

發表者 森下章司

大手前大學

四月二七日 『魏志』烏丸鮮卑東夷傳と『魏略』『魏書』(二)

發表者 森下章司

大手前大學

五月一日 『魏志』烏丸鮮卑東夷傳序

發表者 森下章司

五月二五日 『魏志』烏丸傳

發表者 向井佑介

六月 八日 『魏志』烏丸傳・鮮卑傳

發表者 向井佑介

六月二二日 魏志東夷傳にみえる住まいの描寫

發表者 淺川滋男

七月一三日 『魏志』鮮卑傳

發表者 向井佑介

七月二七日 肅慎の楛矢に關する基礎的研究

發表者 馬淵一輝

九月二六日 『魏志』夫餘傳(一)

發表者 大谷育恵

一〇月二二日 『魏志』夫餘傳(二)

發表者 大谷育恵

一〇月二六日 挹婁の考古學

發表者 大貫靜夫

一一月一六日 『魏志』高句麗傳(一)

發表者 東京大學名譽教授

一一月三〇日 『魏志』高句麗傳(二)

發表者 大谷育恵

一二月一四日 國際研究ミーティング「東夷諸族の形成過程をめぐる諸問題」

發表者 大谷育恵

日韓の食事様式と調理方法

發表者 長友朋子

一月二一日 『魏志』東沃沮傳

發表者 馬淵一輝

一月二五日 國際研究ミーティング「東夷諸族の形成過程をめぐる諸問題」

發表者 東 潮

二月八日 『魏志』濊傳

發表者 馬淵一輝

人文學研究部

ブラフマニズムとヒンドウイズム——南アジアの社會と宗教の連續性と非連續性

班長 藤井正人

本研究では三年の研究期間を半年ごとの全六クールに分け、各クールごとにテーマを設定し、複数回の定例研究会とクール最後のシンポジウムを開催している。今年度前半の第五クールでは、定例研究会で古代および中世インドの哲學と學問について、ウパニシャッド、パーニニ文法學、傳統學問分野、密教ホーマ儀禮、後期アドヴァイタ學派、ヤースカ語源學についての報告が行われ、一〇月に「古典インドの哲學と學問」をテーマに第五回シンポジウムを人文科學研究所で開催した。後半の第六クールでは、定例研究会で古代および中世インドにおける王權と宗教を取り上げ、これ

までに王權儀禮、王座とブラフマン神、グルマ文獻、ヴェーダの願望祭、密教灌頂、祭司選任儀禮、ジャイナ教のクシャトリヤ觀、佛教と王權に關する報告を行うとともに、三月に「古代・中世インドにおける王權と儀禮」をテーマに第六回シンポジウムを東京大學で開催した。

アジアにおける人種主義の連鎖と轉換

班長 竹澤泰子

本年度は大きく分けて以下の五つの活動を中心に實施した。(一)二〇一六年に刊行した「人種神話を解體する」計三巻の最後の成果公開イベントとして、第一巻「可視性と不可視性のはざま」の執筆者による連続セミナーを計三回人文研アカデミーとして行った。(二) 國際共同研究を含めた「新・可視性と不可視性のはざま」の連続セミナーを計二回人文研アカデミーとして行った。その際、外國人招聘研究者からも協力をえた。(三) 國際シンポジウム「環太平洋の日系ディアスポラ・アートル・マイナー・トランスナショナルリズムにみる遭遇と想像」を人文研アカデミーとして行った。この成果は、内容を差異化して海外の二つの雑誌において二〇一九年および二〇二一年に特集號を組むことが決定している。その他、米國日系人に關して、ゲストを招き二回研究會を行った。(四) 人種・民族のカテゴリーを用いた遺傳子検査ビジネスについて、海外から二度ゲストを招き、文理融合での研究會を六回行った。(五) 環太平洋地域における人種主義をめぐる論文集刊行に向けて、合宿を行った。本年度で共同

研究(B)は終了するが、この三年間において積み重ねてきた研究や議論を、次年度から成果として發表していく豫定である。

生と創造の探究——環世界の人文學

班長 岩城卓二

二〇一七年三月に終了した「環世界の人文學——生きもの、なりわい、わざ」を引き継ぐ本研究班の二年目である本年度は、引き継ぎ、各職員による個別課題についての研究報告を中心に例會を開催するとともに、ゲスト・スピーカーを招いた研究會を開催し、陶藝家の彌生時代の衣食住を追體験する試みや知的なハンディをもつ人々の農業經驗に關してみなで議論したり、生をめぐるさまざまな人間と動物の営みについて、活発な議論を行った。本年度の前半はゲストも交えて廣く知識を得る企畫を持ち、後半は、二〇二〇年度に刊行豫定の論集に向けて、具體的な内容について議論を始めた。

暴力・宗教・性の語りをめぐる

班長 田中 雅一

研究會を二回、合評會、関連ドキュメンタリー上映會、公開講演會をそれぞれ一回行った。また関連資料の整理を行った。前期はメンバーの調査などの都合により、後期に集中して研究會や資料の整理を行った。

「ヴァードウーラ・シユラウターストラ」研究

班長 井狩彌介 藤井正人

ヴァードウーラ・シユラウターストラの第八章(アグニチャヤナ祭)を研究対象にして、井狩

(班長)が校訂テキストと譯注を作成し、研究會で報告するとともに、参加者全員によって検討を行った。昨年度と同様に、テキストの會讀を中心に、補説的な研究を混ぜながら共同研究を進めた。今年度、これまでに検討したテキストの主題は、アグニ祭壇敷地への連葉、金板、黄金の人像の設置、祭壇第一層と第二層の煉瓦の配置などである。

近代京都と文化

班長 高木博志

本年度は、近代京都の文化について全八回の研究會を行い、繪畫・建築・文學など藝術分野に力點をおき、新出史料の紹介や検討を行った。特に本年度の活動としては、文獻・繪畫・建築・寫真など多様な形態の新出資料が各報告者により提示され、その性格や研究史上の意義について綿密な討論を重ねたことが特筆される。九月二日には京都市内において建築史を考えるフィールドワークをおこなった。ここでは、まず畫家のアトリエ兼住宅として舊竹内栖鳳邸「霞中庵」、および舊岡鐵齋邸の二ヶ所を巡見し、近代建築・庭園として整備が進み、公開の用にも供されている前者に對し、なお保存・活用法が検討されている段階の後者という對照的な二つの邸宅を見學したのち、京都市の擔當者とともに後者の保存・活用法について議論した。また、近代に特徴的な二箇所の創建神社を見學し、その建築史上の意義について討論した。十一月十七日には、「生と創造の探求」班と共同で、「博物館と文化財の危機——その商品化、觀光化を考える」と題したシンポジウムを開催し、史料館・文化財の保存と活用のバランス

や先進的な取り組みについて紹介・検討した。全體を通して、本年度は特に資史料についてその研究上の意義と保存・公開との関係について、建設的なあり方について議論を深めたことが大きな成果である。一五篇の論文からなる高木博志編『近代天皇制と社會』（思文閣出版、二〇一八年、五四〇頁）を出版した。

21世紀の人文學——Our Ageを問ふ

班長 岡田暁生・小關隆・佐藤淳二  
二〇一八年度は計一五回の研究会を催し、うち一回は國際ワークショップの形をとった。また本研究班は學際的な性格を強く持ち、異分野についての参加者の基礎知識の共有が必須であつて、金曜開催の七回については「・入門」と銘打ち、この情報共有を主眼とすることとした。本研究班の根本的な問いは「この世界はいつ始まつていたか」「この世界は何なのか」「この世界をどうすればよいか」という、過去・現在・未來にかかわる問題であるが、本年度は主として「いつから始まつていたか」という第一の問いに集中的に取り組んだ。具體的にはそれは一九七〇年代の研究であり、音楽・精神療法・環境運動・アメリカ史・經濟・アートなど多方面から、現代世界の起點としての七〇年代の諸相を明らかにした。参加者はのべ二二五名（うち女性二八名、若手六一名、大学院生三一名、私立大學四二名、國立他大學五八名）であつた。なお本研究班は三人班長體制をとっているが、歴史系を小關、藝術系を岡田、思想史系を佐藤が統括すること、分野融合につと

めている。

帝國日本の「財界」形成についての研究…一八九五年—一九四五年 班長 籠谷直人

(1) まず、基本の史料となる『三輪常次郎日記』については、班員に翻刻の箇所を割當て、各土曜日をめぐりに集まり、讀書會を開催し、内容を議論した。(2) 三好通弘氏（祇園辻利會長）から閲覽をゆるされた史料群は、中央研究院臺灣史研究所の鍾淑敏氏と分擔して、三好通弘氏の在臺北時代の記録を整理した。二〇一八年五月八日から一〇日に、鍾淑敏氏が京都大學人文科學研究所を訪問し、相互の意見交換をして、あわせて三好通弘氏からの聞き取り調査を實施した。

個人研究

東方學研究部

- 先秦時代の金文 淺原達郎
- 川西走廊の漢藏諸語の記述研究 池田 巧
- 中國共產黨史の研究 石川禎浩
- イスラーム東漸史の研究 稲葉 穰
- 東アジア佛教美術史の研究 稲本泰生
- 近代中國の財政と社會 岩井茂樹
- 佛教研究知識ベース——禪佛教を例として WITTERN, Christian
- 古代中國の考古學研究 岡村秀典
- 中國傳統科學の思想的考察 武田時昌
- インド・中國における佛教の學術と實踐 船山 徹

高麗官僚制度研究

- 文字コード理論 矢木 毅
- 中國注釋學史研究 安岡孝一
- 中國イスラームの研究 古勝隆一
- 中國中世近世の文學理論 中西龍也
- 一〇〜一三世紀ユーラシア東方における王朝間關係の研究 永田知之
- 秦漢制度史の研究 古松崇志
- 歴史考古學的方法にもとづく中國文化研究 宮宅 潔

近代華南沿海の社會經濟制度の變容

- 向井佑介
- 東方學における對象の論理學的研究 村上 衛
- 南宋道學の經書解釋 白須裕之
- 中國家具とその使用に關する研究 福谷 彬
- 中國古代中世の官制史 高井たかね
- 東西資料によるモンゴル時代の文化交流と諸制度の研究 藤井律之
- 文字定義情報に基づく文書表現系に關する研究 宮 紀子
- 守岡知彦

人文學研究部

- 近世社會解體過程の研究 岩城卓二
- 近代西洋音樂史 岡田暁生
- 戰前期日本の工業化と華僑ネットワーク 籠谷直人
- イギリス・アイルランド近現代史 小關 隆
- 技術・自然・（ポスト）現代性の思想——哲學的探求 佐藤淳二
- 近代天皇制の文化史的研究 高木博志

人種・エスニシティ論 竹澤泰子

南アジアの宗教と社会／近代における暴力、セクシュアリティ、宗教 田中雅一

ヴェーダ文献の生成と傳承の研究 藤井正人

西アフリカと南アジアの宗教、憑依、閉身體性 石井美保

近代トランスコーカサス(特にグルジア)における匪賊 伊藤順二

近世ヨーロッパの歴史敘述と政治思想 王寺賢太

東アジアにおける生命科学と「自然」 瀬戸口明久

近代日本美術と西洋 高階繪里加

精神分析的知の思想史的位置づけ 立木康介

近現代日本の社会運動・社会思想 福家崇洋

農業史の再構築 藤原辰史

フランス象徴主義と文学的モデルニテ 森本淳生

島崎藤村その他の近代文学者の作品研究——リアリズム、メディア、帝國 HOLCA Inna

皇室の土地所有に関する歴史的研究池田さなえ

無聲映画史 小川佐和子

近代日本民俗誌システムの研究 菊地 暁

近代西洋醫學發展史研究および身體論 田中祐理子

在米日・墨移民の相互關係に関する歴史的研究 徳永 悠

——環太平洋の視點から

啓蒙と文學——アドルノ美學における「人間性」の位置づけ—— 藤井俊之

## 事業概況

### ・Kyoto Lectures 2018

二〇一八年四月一七日

於 フランス国立極東學院・京都支部

War without Blood? The Literary Uses of a Taboo

Fluid in the Heike monogatari

講演者：Vyjayanthi Ratanam Selinger

(ポウデイン大学准教授)

・連続セミナー「(68年5月)と私たち」——68

年5月と現在、政治と思想を往還する(人文研アカデミー)

二〇一八年五月一〇日、五月一七日、五月二四日、

五月三一日、六月九日

於 京都大学人文科学研究所本館セミナー室一

五月一〇日(木)

「68年から人間の終わりを考える…人でなし、あるいはIPSやらAIやら」 講演者：佐藤淳二

「一九六八年後の共産黨」 講演者：小泉義之

(立命館大学先端研教授)

五月一七日(木)

「68年5月と精神医療制度改革のうねり」

講演者：上尾真道

(人文科学研究所研究員)

「精神分析の68年5月——「ラカン派」の内と外」

講演者：立木康介

五月二四日(木)

「ドゥルーズ・ガタリと68年5月——佐藤・廣瀬

著「三つの革命」をめぐる

講演者：佐藤嘉幸

(筑波大学准教授)

廣瀬純

(龍谷大学経営学部教授)

五月三一日(木)

「(学知ってなんだ)…エピステモロジーと68年」

講演者：田中祐理子

「京大人文研のアルチュセール——68年前後」

講演者：王寺賢太

六月九日(土)

「イギリスのポスト68年」 講演者：布施哲

(名古屋大学文学部准教授)

「68年のドンキホーテ」 講演者：市田良彦

(神戸大学国際文化学研究所教授)

「人種神話を解體する——可視性と不可視性の

はざままで」出版記念 連続セミナー@人文研

(人文研アカデミー)

二〇一八年五月一九日、六月二日、六月二六日

於 京都大学人文科学研究所 本館一階一〇一

五月一九日(土)〈第一回 被差別部落の表象

差異と差別の(不)可視化をめぐる

講演者：竹澤泰子

見えない差異と映像表現の問題

講演者：齋藤綾子

(明治学院大学文学部教授)

六月二日(土)〈第二回「創られた人種」の可

視化〉

アイヌの〈血〉が意味するもの

講演者：關口由彦  
 「國民の物語」再考——部落問題認識における本質論を超えて——  
 講演者：吉村智博

六月二六日(土)〈第三回 新人種主義の現在〉  
 「ジプシー」可視化と新人種主義  
 講演者：岩谷彩子

(京都大學生人間・環境學研究科准教授)  
 座談會 參加者：岩谷彩子、關口由彦、吉村智博、齋藤綾子、竹澤奏子ほか

・Kyoto Lectures 2018  
 二〇一八年五月二九日

於 フランス國立極東學院・京都支部  
 Christian Sorcerers Crucified: Reconsidering the Keihan Krishitan Incident of 1827-29  
 講演者：Mark Teuwen  
 (オスロ大學教授)

・Kyoto Lectures 2018  
 二〇一八年六月四日

於 フランス國立極東學院・京都支部  
 Dead Goddesses and Living Narratives: Variant Accounts in Early Japanese Mythology  
 講演者：David Lurie  
 (コロンビア大學准教授)

・アンナ・ザイデル記念講演  
 二〇一八年六月一日

於 東アジア人情報學研究センター  
 二階大會議室

Traces of Buddhism, Daoism, and Popular Religion in East Asian Religious Icons  
 講演者：James Robson  
 (ハーヴァード大學教授)

・レクチャーコンサート+日本18世紀學會共通論  
 題セッション  
 二〇一八年六月二三日、六月二四日

I レクチャーコンサート「20世紀が變奏した18世紀」(人文研アカデミー)  
 二〇一八年六月二三日

於 京都大學人文科學研究所四階 大會議室  
 ピアノ奏者：小坂圭太  
 (お茶の水女子大學基幹研究員教授)  
 講師：岡田曉生

II 日本18世紀學會第四〇大會共通論題セッション「啓蒙のリミット——神話・文學・政治思想の「おまじ」」  
 二〇一八年六月二四日

於 京都大學人文科學研究所本館共通I講義室  
 「啓蒙のリミット——神話・文學・政治思想の「おまじ」」  
 佐藤淳二  
 「二つの18世紀——アドルノとハーバースの『現代』をめぐって」  
 藤原俊之  
 「中國の18世紀——二つの視点から」  
 井波陵一  
 「フランス革命における後見人の問題——誰が誰の後見人になるべきか？」  
 上田和彦

・臺灣漢學講座——Taiwan Lectures on Chinese Studies

二〇一八年六月二六日  
 於 東アジア人情報學研究センター二階大會議室  
 講演者：Ping-tzu Chu

・特別講演會『Essay on History of Cultic Images in China: The Domestic Statuary of Hunan』  
 二〇一八年六月二六日

於 人文科學研究所本館一階セミナー室一  
 講演者：Alain Arrault  
 (フランス極東學院)

・日佛東洋學會「ニ・シンボジウム(クローデルと極東)」  
 二〇一八年六月三〇日

於 人文科學研究所本館一階セミナー室一  
 (Paul Claudel et l'Indochine) ポール・クローデルとインドシナ  
 講演者：Michel WASSERMAN  
 (立命館大學國際關係學部教授)  
 講演通譯：門田眞知子  
 (CR12所屬研究員)

コメンテーター：牧野元紀  
 (昭和女子大學准教授)  
 開會挨拶：立木康介  
 閉會挨拶：中谷英明  
 (日佛東洋學會會長)



・人文研アカデミー夏期公開講座「名作再讀——いま讀んだらこんなに面白い12」

二〇一八年七月一四日

於 人文科學研究所本館一階 共通一講義室  
「鷲の巢」からアガサ・クリステイーを眺めると

宮 紀子

明暦日本の物産——木綿に注目して——大文字屋  
治右衛門(松江重頼) 編「毛吹草」を讀む

籓谷直人

探検大學のバイオニアたち——長廣敏雄「雲岡日記」から

岡村秀典

・人文研アカデミー二〇一八「日本・ルーミア  
ア・ドイツ・中國・ソ連における社會主義と文化  
交流のネットワーク」：文學、舞臺演劇、映畫」

二〇一八年七月二一日

於 人文科學研究所本館一階セミナー室一  
報告：田村容子(金城學院大學文學部教授)、ヤ  
コブ・ヴィヴィアナ(高等學術研究セン  
ター特別研究員)、和田崇(三重大學教育  
學部准教授)

コメント：石川禎浩、尹芷汝(名古屋大學大学院  
人文科學研究所博士研究員)

司會：パシユカ・ロマン(神田外語大學日本研究  
所専任講師)、ホルカ・イリナ

・Kyoto Lectures 2018

二〇一八年七月二三日

於 フランス國立極東學院・京都支部

Anomalies in Aesop: Extraneous Episodes in the  
Japanese Script Edition of Isolepis monogatari

講演者：Lawrence E. Marceau

(オークランド大學)

・高校生のための夏期セミナー「人文科學研究への招待——「生きる」を考える」

二〇一八年八月一八日

於 人文科學研究所本館一階セミナー室一  
「視覚メディアとしての繪畫——描かれた生き物  
たち——」

高階繪里加

「ロケットは何を愛したの?——哲學で考えてみよう——」

田中祐理子

・Kyoto Lectures 2018

二〇一八年九月一四日

於 フランス國立極東學院・京都支部  
Heresy and Heresiology in Shingon Buddhism:  
Reading the Catalogues of "Perverse Texts"

講演者：Gaëtan Rappo

(名古屋大學)

・人文研アカデミー2018連続セミナー「技藝の  
傳統と學問——中國ユネスコ無形文化遺產」

二〇一八年九月一四日、九月二一日、九月二八日、  
一〇月五日

於 人文科學研究所本館一階セミナー室一  
九月一四日(金) 珠算・ソロバン暗算術(總論・  
世界遺産からみた傳統科學文  
化)

武田時昌

九月二一日(金) 鍼灸：脈診・腹診・ハラノムシ  
(日中鍼灸醫術比較論)

長野 仁

(森ノ宮醫療大學教授)

九月二八日(金) 書道：秦漢の古文字を書いてみる(出土簡帛研究最前線)

名和敏光

一〇月五日(金) 古琴：知音の調べ、琴學の理論  
(傳統音樂文化論&實演) 麥文彪

・シンポジウム New Visibilities and Invisibilities: convergent and divergent modes of racism and racialization Part I (新・可視性と不可視性のはざま part I)

二〇一八年九月二九日

於 人文科學研究所本館一階セミナー室一

講師：Faye V. Harrison

(イリノイ大學教授)

John G. Russell

(岐阜大學教授)

Stephen A. Small

(カリフォルニア州立大學バークレー校)

コメント：イリノイ大學教授  
司會：竹澤泰子

・シンポジウム 古代インドの哲學と學問——始まりと展開——

二〇一八年一〇月七日、一〇月八日

於 芝蘭會館「別館」研修室一  
最初のウパニシャッドはどのように生まれたのか

藤井正人

ヴェーダ祭式とバーニニ文法學  
神の名の意味を知ること——神性アグニ(agnī)の  
分析に見るヤースカの語源學と神學

尾園絢一

川村悠人・堂山英次郎  
インド密教におけるホーマ儀禮について

菊谷龍太  
後期アドヴァイタ學派における bhakti 論

眞鍋智裕  
14または18の學問(vidyashana)について

吉水清孝  
・ Kyoto Lectures 2018

二〇一八年一〇月一日  
於 フランス國立極東學院・京都支部

Boxes of Fleas and Butterfly Folding Fans:  
Collecting Insects in Colonial Taiwan

講師：Kerstin Panhorst  
(フンボルト博物館)

・シンポジウム アジアとヨーロッパの被差別民  
〈新・可視性と不可視性のはざま〉 part2)

二〇一八年一〇月二日  
於 京都大學東京オフィス

河原者・ユダヤ人・「ジプシー」——中世の「特  
權神話」—— 竹澤泰子

部族民と不可觸民——インドにおける差別の諸形  
態—— 田邊明生

(東京大學大学院総合文化研究科)  
・人文研アカデミー二〇一八「石牟禮道子さんの  
世界にふれよう」

二〇一八年一〇月一九日、一〇月二〇日  
第一部 一〇月一九日(金)

「石牟禮道子」を撮る ―魂の言葉に向き合う―  
於 熊本市立圖書館

講師：吉崎 健  
(NHK熊本ディレクター)

藤原辰史  
第二部 一〇月二〇日(土)

石牟禮さんと食べ物をめぐるキッチントーク  
於 熊本市慶誠高校

講師：藤原辰史  
第三部 一〇月二〇日(土)

石牟禮道子作品のビブリオ・トーク  
於 熊本市立圖書館

コーディネーター：藤原辰史  
・人文研アカデミー二〇一八・公開シンポジウム  
企画「映畫『祇園祭』と京都」

二〇一八年一〇月二七日、一〇月二八日  
第一日目 一〇月二七日(土)

「映畫『祇園祭』上映會」  
於 京都大學時計臺國際交流ホール(Ⅱ)(Ⅲ)

主催者挨拶及び上映作品の背景説明 谷川健司  
(早稲田大學政治經濟學院客員教授)

映畫『祇園祭』(168分)の復元版35ミリフィルム  
での上映會

第二日目 一〇月二八日(日)  
研究報告會「京都史の中における『祇園祭』」

於 京都大學人文科學研究所本館四階大會議室  
「中村錦之助の『祇園祭』製作前夜——五社協定  
と俳優クラブ組合を中心に——」 木村智也

(明治學院大學非常勤講師)  
「『祇園祭』論争に見る脚本家と監督の権限」

板倉史明

(神戸大學大学院國際文化研究科准教授)  
「映畫『祇園祭』の復元と保存」 太田米男

(大阪藝術大學藝術學部教授)  
「映畫『祇園祭』と歴史學研究」 京樂眞帆子

(滋賀縣立大學人間文化學部教授)  
「近現代史のなかの映畫『祇園祭』」 高木博志

パネルディスカッション  
パネラー：木村智也、板倉史明、太田米男、  
京樂眞帆子、高木博志他

司會：谷川健司  
デイスカッショント：木下千花

(京都大學大学院人間・環境學研究科准教授)  
・NHKドキュメンタリー制作者が見た、日系ア  
メリカ人 榮光と苦難の150年。

二〇一八年一〇月三一日  
於 人文科學研究所本館一〇一

講師：小山靖史  
(NHKエンタープライズ エグゼクティブプロ  
デューサー)

・ Kyoto Lectures 2018  
二〇一八年十一月六日

於 フランス國立極東學院・京都支部  
Monkey Business: Differing Approaches to the  
"Reconstruction" of the Bugaku Piece

講演者：Andrea Giola  
(國際日本文化研究センター)

・人文研アカデミー二〇一八「博物館と文化財の  
危機——その商品化、觀光化を考える」

二〇一八年十一月七日

於 熊本市立圖書館

於 人文科學研究所本館四階大會議室

「文化財住宅を博物館にする」 小泉和子

(登録文化財昭和のくらし博物館館長・

重要文化財熊谷家住宅館長)

「對話する史料館」

岩城卓二 久留島浩

(国立歴史民俗博物館館長)

「文化財と政治」

高木博志

司會：原田敬一

・北白川 EFO サロン二〇一八——二〇一九

「日本における宗教と民衆への教え」

二〇一八年十一月三〇日

於 フランス極東學院京都支部

日本文化における〈地獄繪〉の機能と空間

——

唱導・後戸・境界を中心に——

講師：鈴木堅弘

(京都精華大學特別研究員)

・人文研アカデミー2018「マルグリッド・デュ

ラス 聲の〈幻削〉——小説・戯曲・映畫」

二〇一八年二月一日

於 アンステイチュ・フランセ關西——京都 稻

畑ホール

I 虚空と沈黙

「夜明けの光」のセラナーデを歌うのは誰か？

——『かくも長き不在』における〈聲〉の幻前

森本淳生

聲なき身體、静かなる犯罪——『イギリスの愛

人』に寄せて 立木康介

## II. 映畫と〈聲〉

デユラス、聲を巡るエクリチュールの試み——聲

の現前と不在の間で 關 未玲

(愛知大學經營學部准教授)

聲とまぼろしの風景——デユラス、足立、スト

ローブルーユイレ、ポレにおける移動撮影 橋本知子

(京都女子大學非常勤講師)

III 新たな視角へ向けて

どのように呼びかける(呼ぶ)のか——マルグ

リット・デユラスにおける名前の力 澤田 直

(立教大學文學部教授)

聲に對するある種の違和感。

ジル・フィリップ

(ローザンヌ大學文學部教授)

・國際シンポジウム Redrawing and Straddling

Borders: Chinese Muslims in Transnational

Fields and Multilingual Literatures

二〇一八年二月一日、二月二日

於 人文科學研究所本館四階大會議室

「Us” and “Others” in Response to Changing

Historical Circumstances

Family, Umma, and Nation: Multilayered and

Dynamic Identities of Chinese Muslims 中西竜也

Boundaries of Hui: About Wartime Ethnic

“Identity” 趙 元昊

(中國社會科學院)

Way of Heaven, Way of Man: Boundaries of the

Shari'a in Qing and Republican China

Aaron Glasserman

(コロンビア大學)

Different Religious Practices and “Others” in

Northern Thailand Suchart Setthanalinee

(ナーヤップ大學)

一一月二日 Straddling Spatial, Cultural, or

Ethnic Boundaries

Transcending Linguistic Boundaries in Late

Imperial China: The Case of *Mirzad al-'ibad*

Dror Weil

(ベックス・ブランク科學史研究所)

Overseas Hui Entrepreneurs and the Globalisa-

tion of Qingzhen Ethnic Food: A Case Study of

Malaysia Diana Wong

(ブローンズ大学)

Legacy, Sociability, Moving Borders: An

Ethnography of Trade Relationship between

Chinese Muslims and Tibetans in Amdo

Marie-Paule Hille

(社會科學高等研究院)

Socio-Cultural Similarities and Differences among

Different Muslim Groups in Mainland China: An

Approach toward the Multiculturalism in Muslim

Minorities 王 建新

(蘭州大學)

Border-crossing, Belonging and Family networks

among Chinese Muslim Diaspora in Northern

Thailand Wang-Kanda Lulian

(同志社大學)

At Home in Diaspora: The Chinese Hui Migrants in Malaysia 馬海龍

(青海民族大學)

・ Kyoto Lectures 2018  
二〇一八年二月四日

於 フランス国立極東學院・京都支部  
Pushing Filial Piety: The Orogizoshi Nijushiko and an Osaka Publisher's Beneficial Books for Women' 講演者: Keller Kimbrough  
(コロラド大學ポールダー校)

・ 科研「新宗教史像の再構築」公開シンポジウム  
『1968年と宗教——全共闘以後の「革命」のゆくえ——』  
二〇一八年二月五日

於 人文科学研究所四階大會議室

高橋和巳と1968年前後——未成へ向かう臨死者の眼—— 川村邦光

1968年の身體——津村喬における氣功・太極拳—— 鎌倉祥太郎

田川健三における大學闘争と宗教批判——觀念と現實のはざま—— 村山由美

神々の爆發——一九六八年と〈民衆宗教〉觀の變遷—— 武田崇元

柳田國男と戦後民主主義の神學——一九六八年の視點からの照射—— 桂秀實

近代主義を超えてを越えて——宗教研究と一九六八年—— 栗田英彦  
司會: 栗田英彦

・ 北白川 EPEO サロン二〇一八——二〇一九

「日本における宗教と民衆への教え(16〜19世紀)」

二〇一九年一月二五日、二月八日

一月二五日 寺院所藏の幽靈畫——その意味と縁起、口碑、圖像——

於 フランス国立極東學院・京都支部  
講師: 堤 邦彦  
コメンテーター: フランソワ・ラシヨール  
(京都精華大學教授)

二月八日 失われたキリシタン民衆の聲を求めて——島原天草一揆後の排耶書を中心に——  
於 人文科学研究所本館一階セミナー室一  
講師: マルタン・ノゲラ・ラモス  
(フランス国立極東學院准教授)

・ 特別展「カメラが寫した80年前の中國——京都大學人文科学研究所所藏 華北交通寫眞展」

二〇一九年二月一三日〜二〇一九年四月一四日  
於 京都大學總合博物館

・ 京大河合文庫目録刊行記念シンポジウム「韓國古文獻の世界」  
二〇一九年二月二一日

於 京都大學付屬圖書館三階ライブラリーホール  
「河合文庫概観」 藤本幸夫  
(富山大學名譽教授)

「河合文庫所藏筆記雜錄の特徴と意義」 鄭 雨峯  
(高麗大學校教授)

「朝鮮燕行錄の世界——河合文庫所藏、趙顯命

』歸鹿集(『藩行日記』)に見える中國觀察」 夫馬 進

「金石集帖」の特徴と意義」 沈 慶昊  
(京都大學名譽教授)

「河合文庫所藏『遺稿』の著者、鄭元淳について」 金 文京  
(京都大學名譽教授)

「朝鮮後期ソウル名門家の家計經營——河合文庫所藏安東金氏金壽增娉妹分財記」 安 承俊  
(韓國學中央研究院古文書研究室長)

「河合文庫所藏文集の特徴と意義」 朴 英敏  
(高麗大學校研究教授)

「河合文庫所藏朝鮮時代家屋實買文書から見たソウルの民家」 金 文京  
(鶴見大學教授)

・ 退職記念講演會「私流文化人類學におけるヘウレーカ、現代思想、不在のイマージ」  
二〇一九年二月二三日

於 京都大學益川ホール(北部總合教育研究棟一階)

第一部 講演 演者: 田中雅一

第二部 田中先生を圍んでの座談會  
登壇者: 田邊明夫(東京大學)、岩谷彩子(京都大學)、河西瑛理子(京都大學)

・ 國際ワークショップ「Towards the Comprehensive Image Database on Bamyan Buddhist Site」

二〇一九年三月一日、三月二日

於 人文科學研究所一階セミナー室一

Archaeological Missions of Kyoto University and  
Bamiyan 稲葉 穰

Discovering the Past and Documenting for the  
Future: The Story of an International Colla-  
boration Deborah KLIMBURG-SALTER  
(ウーレン大學・ハーバード大學)

Opportunities and Challenges on Economic  
Development through Mineral Extraction and  
Cultural Property Preservation in Mes Aynak,  
Afghanistan Masanori NAGAOKA  
(UNESCO)

CIRDIS and the Himalayan Archives Vienna: A  
Brief Historical and Technical Overview with  
Insights into Ongoing Development  
Verena WIDORN & Jürgen SCHÖRFLINGER  
(CIRDIS, ウーレン大學)

・ Kyoto Lectures 2019  
二〇一九年三月七日

於 フランス国立極東學院・京都支部  
The Japanese Uses of European Renaissance:  
Regeneration and Reconstruction in the Modern  
Period 講演者: Francesco Campagnola  
(コント大學)

・ 第一四回 TOKYO 漢籍 SEMINAR 「仙やうつ  
概念装置——仙薬・仙界・仙術」  
二〇一九年三月一日

於 一橋大學一橋講堂中會議場  
延年長壽のアルケミー 武田時昌

報 彙

『幽明録』にみえる洞窟のはなし 土谷昌明

飛行する仙人 (専修大學經濟學部教授)  
大形 徹

・ 特別講演會 Chivalric Bands (Futuwaw/  
fityan) in Medieval Islamic Cities  
二〇一九年三月十五日

於 人文科學研究所本館一階セミナー室一  
講演者: Deborah Tor

・ 第六回シンポジウム 「古代・中世インドの王  
權と宗教」  
二〇一九年三月二三日、三月二四日

於 東京大學文學部法文一號館二一五教室  
王座とブラフマン神 藤井正人

願望祭とヴェータ期における社會秩序の維持  
天野恭子  
血統、家系はなぜ重視されたのか: 祭官選任儀禮  
の整備を中心として 西村直子  
贖罪としてのアシユヴァメータ 手嶋英貴  
ジャイナ教におけるクシャトリヤ觀の一事例 河崎 豊

佛教と王權: ブッダの始祖傳説からモンゴル王統  
史まで 山口周子

インド密教における灌頂次第とチベットへの傳達  
菊谷龍太  
ダルマ文獻における司法論題の配置とその變遷  
沼田一郎

## 所員動靜

- 岡村秀典教授(東方學研究部)を附屬東アジア  
人文情報學研究センター長に併任(二〇一八年  
四月一日〜二〇一九年三月三十一日)
- 石川禎浩教授(東方學研究部)を附屬現代中國  
研究センター長に併任(二〇一八年四月一日〜  
二〇一九年三月三十一日)
- 稻本泰生准教授は、教授(東方學研究部)に昇  
任(二〇一八年四月一日付)。
- 福家崇洋は、准教授(人文學研究部)に採用  
(二〇一八年四月一日付)。
- 白須裕之は、助教(東方學研究部)に採用(二  
〇一八年四月一日付)。
- 福谷彬は、助教(東方學研究部)に採用(二〇  
一八年四月一日付)。
- 森下章司は、客員教授(文化研究創成研究部門、  
二〇一八年四月一日〜二〇一九年三月三十一日)。  
NOGUEIRA RAMOS, Martin は、客員准教授  
(文化研究創成研究部門、二〇一八年四月一日  
〜二〇一九年三月三十一日)。
- 井狩彌介は、特任教授(二〇一八年四月一日〜  
二〇一九年三月三十一日)。
- 藤本幸夫は、特任教授(二〇一八年四月一日〜  
二〇一九年三月三十一日)。
- VITA, Silvio 京都外國語大學教授は、特任教授  
(二〇一八年四月一日〜二〇一九年三月三十一日)。  
田中祐理子助教(人文學研究部)は、辭任(二

○一八年九月三十日付)、白眉センター特定准教授に就任。

。KNAUDT, Till は、准教授(人文學研究部)に採用(二〇一九年三月一日付)

。HOLCA, Irina 講師(人文學研究部)は、辭任(二〇一九年三月二日付)、東京大學大學院總合文化研究科准教授に就任。

。小川佐和子助教(人文學研究部)は、辭任(二〇一九年三月二日付)、北海道大學大學院文學研究院准教授に就任。

。田中雅一教授(人文學研究部)は、辭任(二〇一九年三月三十一日付)、國際フアッション専門職大學國際フアッション學部教授に就任。

。稻葉穰教授(東方學研究部)は、二〇一七年九月十三日大阪發、高等研究所(Institute for Advanced Study)におき、高等研究所歴史學部門客員研究員として中世中央アジア史の研究を行い、ニューヨークで開催される學會に出席し研究報告を行い、二〇一八年五月十六日歸國。

。瀬戸口明久准教授(人文學研究部)は、二〇一八年十二月十一日羽田發、ハイデルベルク大學におき、TIFO Visiting Professorshipとして講義等を擔當し、二〇一九年二月十八日歸國。

招へい研究員

。卞 東波 南京大學文學院教授  
 唐宋詩日本古注本研究  
 (文化生成研究客員部門)

受入教員 永田准教授

期間 二〇一八年二月一日〜二〇一八年四月三日  
 ○日

。Teuwen, Marcus Jacobus オスロ大學日本學教授  
 祇園祭の近代と現代  
 (文化連關研究客員部門)

受入教員 高木教授  
 期間 二〇一八年二月二〇日〜二〇一八年八月二〇日

。李 裕群 社會科學院考古研究所研究員  
 北朝石窟寺院研究  
 (文化生成研究客員部門)

受入教員 稻本教授  
 期間 二〇一八年五月一〇日〜二〇一八年八月一〇日

。Small, Stephen カリフォルニア大學バークレー校アフリカ系アメリカン研究學部教授  
 人種と色のシンボリズムの日米英國際比較  
 (文化生成研究客員部門)

受入教員 竹澤教授  
 期間 二〇一八年八月二三日〜二〇一八年一月三〇日

。全 勇勳 韓國學中央研究院副教授  
 日韓兩國における西洋天文學受容の比較研究  
 (文化連關研究客員部門)

受入教員 武田教授  
 期間 二〇一八年八月二七日〜二〇一八年一月二六日

。焦 建輝 龍門石窟研究員 副研究館員  
 日本に所藏する龍門石窟調査資料の研究  
 (文化連關研究客員部門)

受入教員 岡村教授  
 期間 二〇一八年一月二七日〜二〇一九年二月二七日

。Duthille Remy Paul Raymond ボルドー・モンテニユ大學言語・文明學部英語圏學科准教授  
 18世紀ブリテンにおける晚餐・飲酒・乾杯  
 (文化生成研究客員部門)

受入教員 王寺准教授  
 期間 二〇一八年二月一日〜二〇一九年三月七日

。Walker, Gavin ムギル大學大學院歴史學部准教授  
 ポスト68年日本の思想的再検討  
 (文化連關研究客員部門)

受入教員 王寺准教授  
 期間 二〇一九年三月一日〜二〇一九年五月三十一日

。楊 振紅 南開大學歴史學院教授  
 出土史料を用いた中國古代法制史の研究  
 (文化生成研究客員部門)

受入教員 宮宅准教授  
 期間 二〇一九年三月八日〜二〇一九年六月七日

招へい外國人學者

。彭 劍 華中師範大學中國近代史研究所副教授

清末制憲問題の研究

受入教員 石川教授

期間 二〇一七年八月三十一日～二〇一八年八月

三〇日

。朱騰 中國人民大學法學院副教授

出土文獻と秦漢時代の制度史

受入教員 宮宅准教授

期間 二〇一七年九月十五日～二〇一八年九月

十五日

。楊孝鴻 上海財經大學人文學院副教授

漢代畫像石(磚)の調査と研究

受入教員 岡村教授

期間 二〇一七年九月二〇日～二〇一八年九月

一九日

。張璋琦 國立清華大學准教授

環境史の視点から見た食文化の繼承と活用——

食文化遺産の保護體制に關する日臺比較について

受入教員 藤原准教授

期間 二〇一七年一月一日～二〇一八年六月

三〇日

。漆麟 西南大學美術學院准教授

日中戰爭期のモダニズム美術に關する日中比較

研究

受入教員 石川教授

期間 二〇一七年一月一日～二〇一九年一

一月一四日

。安東強 中山大學歷史學系副教授

清朝政府と革命黨

受入教員 石川教授

期間 二〇一七年二月一日～二〇一八年九

月一八日

。王煒 山西大學歷史文化學院講師

中國古建築・史跡寫真資料の調査と研究

受入教員 向井准教授

期間 二〇一八年一月一日～二〇一八年七月

十五日

。JACQUET, BENOTT フランス國立極東學院

准教授

建築文化からみたアジアのフロンティアの研究

受入教員 稻葉教授

期間 二〇一八年七月一日～二〇一九年六月

。宋丹 湖南大學外國語與國際教育學院日語系

助理教授

日本における『紅樓夢』の翻譯と受容に關する

研究

受入教員 永田准教授

期間 二〇一八年七月二五日～二〇一九年六月

三〇日

。VERDON, Noemie ナーランダー大學講師

6-11世紀カールシーリングンダラ地方の宗

教・學術・政治史の研究

受入教員 稻葉教授

期間 二〇一八年八月一日～二〇一九年七月三

一日

。玉野井 麻利子 カリフォルニア大學ロサンゼ

ルス校教授

日本帝國時代の「人道主義」の考察——人種概

念をめぐって

受入教員 竹澤教授

期間 二〇一八年一月一日～二〇一九年三月

三〇日

。秦翠翠 河南理工大學外國語學部講師

京都における「洛陽」文化の受容

受入教員 岡村教授

期間 二〇一八年一月二日～二〇一九年一

〇月二一日

。王剛 西南大學歷史文化學院講師

日本と清末の軍事改革

受入教員 石川教授

期間 二〇一八年一月二八日～二〇一九年一

一月二七日

。陳偉 武漢大學歷史學院教授

中國秦漢時代の簡牘史料よりみた古代帝國の實

像

受入教員 宮宅准教授

期間 二〇一八年一月二八日～二〇一九年一

二月九日

。李瑄 四川大學中國俗文化研究所教授

清初渡日黃蘗僧の研究

受入教員 永田准教授

期間 二〇一九年二月一日～二〇二〇年一月三

一日

。李磊 華東師範大學歷史學系副教授

秦漢六朝時代の東アジアにおける政治構造と天

下概念

。受入教員 宮宅准教授

期間 二〇一九年二月二八日～二〇二〇年二月二七日

外国人共同研究者

。DE SOUZA, Lyle Francis ロンドン大学バー

ベック准講師

海外日系人の文学とディアスポラ・アイデンティティ

受入教員 竹澤教授

期間 二〇一六年九月一日～二〇一九年一月三日 (繼續)

。ERICSON, Kjell David コネチカット大学歴史

史学部客員研究助手

ミキモトの眞珠産業の帝國規模での展開とその資本主義の特質

受入教員 藤原准教授

期間 二〇一七年七月二日～二〇一八年四月三日

〇日

。李 媛 北海道大学文学研究科専門研究員

日本古辭書の翻刻階層モデルの構築に関する人文情報學的研究

受入教員 安岡教授

期間 二〇一七年九月一日～二〇一九年九月一日

。魏 永康 東北師範大学歴史文化學院講師

秦漢時代の民族政策と邊境統治

受入教員 宮宅准教授

期間 二〇一七年九月二日～二〇一九年九月二日 (繼續)

。劉 家幸 中央研究院中國文哲研究所博士後研究員

日本の漢文小説における佛教世界…江戸時代から明治初期を中心に

受入教員 永田准教授

期間 二〇一八年一月一日～二〇一九年一月二七日

。李 子捷 日本學術振興會外国人特別研究員

中國5～8世紀の如來藏思想の根本的再評價

受入教員 船山教授

期間 二〇一八年四月二〇日～二〇一九年四月一九日

。吳 國聖 中央研究院歷史語言研究所博士後研究員

10～13世紀胡語寫本と碑文の比較研究

受入教員 中西准教授

期間 二〇一八年九月一日～二〇一八年一月六日

。RUSNEAC OBLEA, Silvii Catalin ハイデル

ベルク大学 PhD Candidate

帝國日本のコメモレイション…戦死者の現在と過去

受入教員 藤原准教授

期間 二〇一八年一〇月一日～二〇一九年三月三〇日

。Frisch, Nicholas イェール大学 PhD Candidate

馮夢龍の出版活動

受入教員 Wittern 教授

期間 二〇一八年二月二日～二〇一八年一

二月二六日

。林 磊 復旦大学歴史學系博士課程

1937～1945年に日本學者が華北で實施した考古調査と中國學界への影響

受入教員 岡村教授

期間 二〇一九年三月二八日～二〇一九年九月二八日

外国人研究生

。金 英仁

近世京都の庶民生活空間としての門前町——北野天満宮前町と祇園の比較を中心に——

受入教員 岩城准教授

期間 二〇一七年四月一日～二〇一九年三月三一日

。吳 虹

6～7世紀日本における佛教美術遺存から見た東アジアの文化交流

受入教員 稲本准教授

期間 二〇一七年一〇月一日～二〇一八年九月三〇日

。趙 暉

近代日本における中國労働者——人口移動という視点から

受入教員 村上准教授

期間 二〇一七年一〇月一日～二〇二〇年三月三十一日

。Caraballo Ricardo

日本の二重國籍者が國籍を放棄するプロセスに関する探究的研究



受入教員 竹澤教授  
期間 二〇一七年一〇月一日～二〇一八年六月  
三一日

。Vargha Attila  
超境する日系二世アメリカ人のアイデンティ  
テイ

受入教員 竹澤教授  
期間 二〇一八年一〇月一日～二〇二〇年三月  
三一日

。吳 日勳  
『莊子』郭象注の研究

受入教員 古勝准教授  
期間 二〇一八年三月一日～二〇一八年八月三  
一日

。石垣 章子  
漢譯佛典として位置付けられた疑偽經典の成立  
と思想の系譜

受入教員 船山教授  
期間 二〇一八年四月一日～二〇二〇年三月三  
一日

。龔 麗坤  
中世中央アジアの言語研究

受入教員 池田教授  
期間 二〇一八年一〇月一日～二〇一九年三月  
三一日

報 王 星  
6～8世紀の華北における陶磁器の考古學的研  
究

受入教員 岡村教授

期間 二〇一八年一〇月一日～二〇一九年九月  
三〇日

## 出版 物

### 紀 要

・人文學報 第一一二號（紀要第一八五冊）  
二〇一八年六月三〇日刊

・東洋學文獻類目二〇一六年度二〇一八年一〇月  
三一日刊

・東方學報 九三冊（紀要第一八六冊）  
二〇一八年二月二〇日刊

・ZINBUN number49  
二〇一九年三月刊

### 研究報告その他

・京都大學附屬圖書館所藏河合文庫目錄 高麗大  
學校民族文化研究院海外韓國學資料センター、  
京都大學人文科學研究所附屬東アジア人文情報  
學研究センター編

二〇一九年二月刊

・人文學宣言 山室信一編  
二〇一九年二月刊

・幕末期における大坂・大坂城の軍事的役割と畿  
内・近國藩 岩城卓二（研究代表者）  
二〇一九年三月刊

・（68年5月）と私たち：「現代思想と政治」の系  
譜學 王寺賢太・立木康介編  
二〇一九年三月刊